

## 第1章 平成26年度事業報告

1	概要	1
2	会議・会合	3
3	会員	8
4	表彰	8
5	粉体工業展	9
6	常置委員会	13
7	規格・標準化委員会	22
8	臨時委員会	28
9	分科会	30
10	粉体工業技術センター	46
11	技術情報交流懇話会	48
12	共催・協賛及び後援行事	49
13	刊行物	51

# 第1章 平成 26年度事業報告

自 平成 26 年 4 月 1 日  
至 平成 27 年 3 月 31 日

## 1. 概要

昨年度の景気は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動により弱さが残る状態からスタートしました。その後、設備投資や企業収益などはおおむね横ばいとなっていくものの、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、各種政策の効果もあって、徐々に消費税率引き上げの影響が薄れ、緩やかな回復基調が続いたように思われます。一方、広島市北部の土砂災害、御嶽山噴火などの不幸な自然災害が多い1年でしたが、青色LEDを開発した赤崎勇、天野浩、中村修二3氏のノーベル物理学賞受賞、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界文化遺産登録は我々に明るいムードを与えてくれました。

当協会としても、会員各位のご支援と関係者のご努力により、成功裡に終えることができた「国際粉体工業展東京2014」をはじめとして、期初に計画した諸事業は、ほぼ滞りなく遂行することができました。以下にその概要について報告いたします。

## 1) 公益目的事業(継続事業)の活動概況

### 1. 1) 調査・研究事業

19の分科会が合計49回(内、単独開催39回、合同開催5回、海外での開催は無し)の会合を開催し、講演・技術討論、工場や研究施設の見学を通じ、それぞれの分野における粉体技術の課題に取り組みました。最近の合計開催回数は、平成24年度46回(合同4回、海外4回)、平成25年度52回(合同3回、海外1回)であり、大きな変化は見られません。特に見学会の開催が困難な環境にありますが、各分科会の報告内容からは活動の活発さが伺えます。

国際粉体工業展東京2014では、分科会コーナーにおいて、19分科会が活動状況や関連技術動向のパネル展示を行いました。さらに、集じん分科会及び食品粉体技術分科会が専門講座を開催したのをはじめ、粉体エンジニア早期養成講座(教育部門主催、粉体ハンドリング、粉碎、分級ふるい分け、乾燥、集じん、混合・成形、計装測定、湿式プロセス、粒子加工技術などの11講座)は、関係する分科会が企画・実施し、粉体技術の継承と技術者の人材育成に資するという観点での活動をしました。

「ナノ物質検討委員会」は、国際粉体工業展東京2014で「ナノ物質の安全な取り扱いに関するセミナー」を開催し「安全面」に関する最新情報を紹介しました。

### 1. 2) 広報・普及事業

#### (1) シンポジウム・フォーラム等の開催

「粉体工業技術に関する調査研究の成果提供」の一環として、当年度も粉体技術フォーラムやシンポジウムの開催に努めました。国際粉体工業展東京2014における「特別講演ーエネルギーのベストミックス」、「最新情報フォーラム」、「粉体工学入門セミナー(入門の入門編)」、「ナノ物質の安全な取り扱いに関するセミナー」、「アジアフォーラム」、「海外情報セミナー」、「粉じん爆発情報セミナー」等等、粉体技術の普及・啓発活動を行いました。さらに、他の学協会との共催5件、後援1件、協賛30件(詳細は49頁参照)も実施しました。

#### (2) 技術情報の発信

上述の開催案内などはホームページ、メールマガジンなどを通じ配信し、また、月刊誌「粉体技術」への掲載などにより、会員のみならず、不特定多数の方々への情報提供に努めました。特に「粉体技術」誌は、機関誌色を強調することなく、粉体技術の成果を広報する基本方針の下で、粉体を取り巻くトピックスを交えたバラエティに富んだ誌面構成に取り組みました。なお、当年度協会が監修した専門書としては「粉体技術総覧」、「アカデミックコーナーの紹介」があります。

#### (3) 技術相談

国際粉体工業展東京2014では「技術相談コーナー」を開設し、3日間で84件の相談に対応しました。また「産学技術交流推進部門」では、会員・非会員問わず技術課題、研究開発課題でお困りの方に技術相談を受けていますが、技術的なお問合せ件数は4件、技術相談に進んだものはわずか2件でした。活動をさらに活性化すべく、広報の強化と技術員の充実を図りました。また、産学連携をより強化すべく産学技術交流の場として“ベストシーズ講演会”を1回、“テクノカフェ”を2回開催しました。

### 1. 3) 人材育成・教育事業

粉体技術者の継続的、専門的生涯教育及び人材育成の一貫として、当年度も以下の講座、セミナーを開催しました。粉体技術の高度化に伴い、粉体ユーザー層では種々の粉体技術的課題があり、教育部門が所掌するこれら講座についても、協会会員以外の参加者が増加しつつあります。

- |                      |               |
|----------------------|---------------|
| ・粉体入門セミナー(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)     | 3回(延べ151名参加)  |
| ・粉体エンジニア早期養成講座(11講座) | 11回(延べ127名参加) |

・粉体技術専門講座(集じん、食品粉体技術分科会)	2回(延べ102名参加)
・粉じん爆発・火災安全研修(初級基礎編)	1回(61名参加)
・粉じん爆発・火災安全研修(中級技術編)	1回(43名参加)
・特別講演(海外情報セミナー)	1回(45名参加)

#### 1. 4) 規格・標準化事業

標準粉体委員会では、粒子径分布測定装置検定用粒子(MBP)の信頼性測定を行い、トレーサビリティがとれた「測定の不確かさ(信頼性)データ報告」を協会HPに掲載しました。これにより、当協会は国際的に認められた粒子径分布測定装置用の認証標準物質を提供できる第一歩を踏み出しました。

規格委員会は、国内および国際標準化作業の推進・支援を行い、粉体工業技術に必要とされるISOの新規制定・改定に伴うJIS原案作成並びにJISの見直しを検討しました。JIS原案作成委員会Ⅰ(粉じん・空気混合物の最少着火エネルギー測定方法)では、協会規格SAP12-10やIEC60241-2-3に対応するJIS原案を作成、JIS原案作成委員会Ⅱ(一面せん断試験による限界状態線(CLS)及び壁面崩壊線(WYL)の測定方法)では、SAP15-13に対応するJIS原案を作成、JIS原案作成委員会Ⅲ(液相遠心沈降法による粒子径分布の測定方法—第2部:光透過式遠心沈降法)では、対応するISO13318-2の改正に伴いJISZ8823-2を改正しました。

ISO対応委員会は3つの小委員会で構成されています。粒子特性評価小委員会は、5月の中・北京、9月の英・マンチェスターにおける国際会議に出席し、国際標準化活動に主体的役割を果たしました。ふるい小委員会は、3月の独・ベルリン会議に出席、ふるい関係のISO規格改定について討議しました。集じん技術小委員会は、9月の英・ロンドンでのISO/TC142総会および同WG5、7会議に出席、国際規格の制定などに対応しました。

粉じん爆発委員会は、耐爆発衝撃形流動層乾燥機について、ドイツのVDI指針及び欧州規格EN1127-1準拠した輸入設置申請をサポートしてきましたが、今年度、国内製造を可能とするため、労働安全衛生総合研究所と共同で技術指針原案を作成しました。また、IEC/TC31電気機器防爆関係規格の国内委員会への対応、粉じん防爆構造規格のIEC規格への整合化の検討・対応などは引き続き行っております。なお、粉じん爆発情報セミナー(国際粉体工業展東京2014併催行事)、粉じん爆発・火災安全研修(初級および中級、教育部門主催)を企画し、実施しました。

#### 1. 5) 海外交流事業

海外交流委員会は、5月6～8日に、米・シカゴで開催されたInternational Powder & Bulk Solids 2014に参加、当協会ブースを設営し、同時開催会議のパネル討論では協会活動を紹介しました。当年度もIPB2014(上海/中国、10月14～16日)に協賛し、協会ブース及びJapanese Pavilion(12社)を開設し参加しました。また、2月16～20日には、インド・ムンバイで開催された粉体工業展(Powder & Bulk Solids India 2015)の視察およびチェンナイとムンバイの企業を見学する小規模ツアーを実施しました。国際粉体工業展東京2014では併催行事として、アジアフォーラム「多国間貿易時代に生きる我国産業」を開催し64名の参加がありました。

### 2) その他事業の活動概況

#### 2. 1) 展示会事業

20回目となる国際粉体工業展東京2014は、314社・団体及び1,006小間の展示規模で開催でき、来場者数は14,726名でした。展示規模は前回は若干上回る数字(前回296社・団体、1,001小間)でしたが、来場者数は前回(15,965名)を下回りました。しかしながら、多くの出展社からは、熱心な来場者が多く、非常に効果のある展示会であったとのお言葉を多くいただきました。

#### 2. 2) 標準粉体製造頒布事業

標準粉体関連のHPをユーザーフレンドリーなものに改定しました。国内での消費税増税の影響を考慮して、前年度より売上げは落ちると予測しましたが、中国、韓国の景気動向の影響もあり売上げは予算比マイナス2%となりました。一方、売上げ総利益は予算比プラス13%と踏みとどまりました。特に、自動車関係に需要が多い粉体に伸び悩みが目立ちました。

#### 2. 3) 会員共益事業

- ・技術情報交流懇話会・・・火(4回)、水(3回)、木(4回)、金(3回)曜会、合計14回 920名の参加がありました。
- ・推薦審査委員会・・・例年通り、分科会功労賞、個人会員・会友の入会審査、協会賞、粉体工業展賞、

粉体工業功績者表彰の推薦を会長に答申しました。

- ・人材育成委員会・・・「若手のつどい」を4回開催しました。第48回および第50回は営業・管理部門の若手、第49回および第51回は技術部門の若手を対象としました。また、国際粉体工業展東京2014での「学生ツアー」は、進路・就職先未定の学生までに範囲を広げて実施、95名の参加がありました。
- ・産学技術交流推進部門・・・会員・非会員問わず、技術課題、研究開発課題でお困りの方に技術相談を受けています。この活動を更に活性化すべく、「ベストシーズ講演会」を1回、「テクノカフェ」を2回開催しました。

### 3) 会員数の推移

入会 10 社、退会 10 社で、当年度末での法人正会員は 275 社、個人正会員は 75 名、賛助会員は 7 社、合計会員数は 357 となりました。

## 2. 会議・会合

### 2.1 第 33 回定時総会

日 時:平成 26 年 5 月 27 日(火) 13:00~14:10

場 所:東京/東京ガーデンパレス (2 階/高千穂の間)  
(東京都文京区湯島 1-7-5)

出席者:出席正会員数 233 名 (出席:52 名、委任状提出:181 名)  
(正会員総数:356 名)

定刻午後1時に、当協会定款第15条に従い、大川原武代表理事会長が議長となり、開会を宣言し、議事に入った。議長より、平成 26 年 5 月 27 日現在、当協会の議決権を有する正会員総数は 356 名(議決権総個数 356 個;法人 279 個、個人 77 個)に対し、当日正会員 52 名(当日議決権 個数 52 個)、議決権行使書面提出者 181 名(書面議決権行使個数 181 個)、合計 233 名(議決権総個数 233 個)となり、出席者数は当協会定款 17 条 1 項に定める定足数、すなわち過半数の出席を得ていることより、本総会が有効に成立する旨の報告があった。引続き、議案書に基づき、報告事項 2 件の報告と決議事項 5 件の議案審議に入った。

報告事項1:平成 25 年度事業報告及び附属明細書の件ならびに平成 26 年度事業計画及び予算の件

題記の件につき、豊見昭専務理事より、別冊第 33 回定時総会資料に基づき夫々説明があった。先ず、平成 25 年度事業報告については、同資料 P.1~の“第 1 章 平成 25 年度事業報告”に基づき、5 つの公益目的事業(調査・研究事業、広報・普及事業、人材育成・教育事業、規格・標準化事業及び海外交流事業)と 3 つのその他事業(展示会事業、標準粉体製造頒布事業及び会員共益事業)について詳しい報告があった。引続き、同資料 P.61~の“第 3 章 平成 26 年度事業計画”に基づき、対処すべき課題として、5 つの公益目的事業の継続的、かつ確実なる推進と、これらを支える収益事業の推進と会員共益事業を積極的に展開するため、「ユーザー視点と実際の設計に役立つ分科会活動」、「基本技術の継承と発展」、「国際粉体工業展東京 2014 の目標達成」、「ナノ物質への対応・検討」という重点目標を掲げ、会員共益活動の活性化を目指す旨の報告があった。更に、同資料 P.77~の“第 4 章 平成 26 年度予算”に基づき、平成 26 年度予算は昨年度比で経常収益は 176,628 千円の増収、経常費用は 113,395 千円の増加見込みであること及び当期正味財産増減額として 30,516 千円の増加を見込んでいることが報告された。

加えて、粉体工業展大阪 2013 において、東日本大震災復興支援活動(講演会及び復興产品展示・即売会)を行ったことも報告された。

報告事項 2:平成 25 年度計算書類等に関する監査結果報告の件

新井英植監事より監査報告があり、平成 25 年度における業務及び財産、ならびに公益目的支出計画の実施状況について監査を行なった結果、法令及び定款に反する重大な事実はない旨の報告があった。

議長より、報告事項 1 及び 2 について質疑を求めたところ、出席者よりの意見、質問はなく報告を終わった。

決議事項

第 1 号議案:平成 25 年度貸借対照表及び正味財産増減計算書ならびに附属明細書の承認の件

題記につき、豊見昭専務理事より、平成 25 年度正味財産増減計算書ならびに附属明細書及び貸借対照表承認の件について、別冊第 33 回定時総会資料 P.51~の“第 2 章 平成 25 年度決算報告”に基づき説明があ

った。すなわち、貸借対照表(P.53)に示す通り、流動資産合計は対前年度比で3,263千円増加、固定資産合計は対前年度比で3,833千円増加して、資産合計では対前年度比7,096千円の増加となった。負債合計は対前年度比で3,850千円減少であり、その結果正味財産合計は対前年度比で10,946千円の増加となり、資産合計と負債及び正味財産合計は共に399,782千円となった。

また、公益目的支出計画実施報告について説明があった。すなわち、

(1)一般社団法人への移行により、特例民法法人として保有していた財産額322,797千円を公益目的のために適正に支出したことを内閣府へ報告する義務があること

(2)25年度の支出(消化)した額は、内訳表(P.52)にある公益目的事業の経常費用計115,843千円から、同表にある経常収益計50,701千円を差し引いた65,142千円となったこと

(3)前年度(24年度)までに支出した額は、119,427千円であり、25年度までに支出(消化)した額は、65,142千円+119,427千円=184,567千円になること

(4)従って、次年度以降に消化しなければならない額は、  
322,797千円-184,567千円=138,228千円ということになり、当初の計画どおり、29年3月までには支出を完了できる見通しであることが説明された。

これらの説明に対し、議長より承認を求めたところ、出席者全員異議なく、第1号議案は原案通り承認可決された。

#### 第2号議案:特定資産「創立50周年記念事業積立基金」の積立の件

豊見専務理事より、平成33年度に当協会は創立50周年を迎えることになり、「創立50周年記念事業積立基金」の現状と計画は下記のようになっている。同年度に記念事業を実施するにあたり基金の積み増しを行い、当該事業の運営に使用したい旨説明があった。

(1)平成25年度末の「創立50周年記念事業積立基金」の額;5,999,685円

(2)平成26年度の積立予定額;6,000,000円

この説明に対し、議長より承認を求めたところ、出席者全員異議なく、第2号議案は原案通り承認可決された。

#### 第3号議案:理事33名及び監事3名選任の件

議長より、理事及び監事全員の任期が本総会の終結時をもって満了となるので、平成26・27年度の理事及び監事の選任について、理事・監事候補者名簿に基づき説明があった。

候補者のうち、赤堀肇紀、伊藤正康、今泉義信、後夷光一、遠藤茂寿、大川原行雄、加藤文雄、紅林哲夫、桑原敏之、齋藤直史、齋藤文良、島田啓司、菅原一博、田久保隆幸、竹内和、棚橋純一、谷本友秀、豊見昭、西村修基、西山徳光、長谷川博、日高重助、細川悦男、増田弘昭、松島徹、六車嘉貢、山田幸良、渡部尚の28氏が理事重任、小川寧彦、長谷川和宏、福森義信、牧野尚夫、村上徹、5氏が理事新任、及び新井英植、中川晴雄、田畑信行の3氏が監事重任であるとの説明がなされた。

議長より、本議案は、議決権行使書面による議決権の行使の結果、本定時総会の前に理事候補及び監事候補すべてについて過半数の賛成が得られており、議案書で提示した候補者を一括して採決することの可否を諮ったところ、出席正会員の中から「議長一任」、「異議なし」の発言があり、議長は一括して、承認を求めた。これに対して全員異議なく、第3号議案は承認可決された。

#### 第4号議案:新任常勤理事に対する報酬の件

議長より、第33回定時同会議案書にある、第3号議案で選任される予定である常勤理事のうち、専務理事に選任される者の報酬については、本協会「役員報酬規程」に示す年俸限度額を上限とし、その具体的金額については、理事会に一任願いたい旨説明があった。また、専務理事以外の常勤役員(事務局長)の報酬については、上記規定限度内、で会長に一任願いたい旨の説明があった。

この説明に対し、議長より承認を求めたところ、出席者全員異議なく、第4号議案は原案通り承認可決された。

#### 第5号議案:退任会長の退任慰労金の件

豊見専務理事より、現会長は本総会の終結時をもって退任となるので、本協会「謝礼金等に係わる規定」に基づき退任慰労金を贈呈することとし、その具体的な金額、贈呈時期及び方法等は、理事会に一任願いたい旨説明があった。

この説明に対し、議長より承認を求めたところ、出席者全員異議なく、第5号議案は原案通り承認可決された。

以上で、第33回定時総会の議事はすべて終了し、14時10分、議長は閉会を宣言した。

引き続き 15:00 から協会賞および細川明彦・佐知子基金による粉体工業展賞の授賞式、ならびに粉体工業功績者表彰式が行われ(9 頁、4. 表彰を参照)、16:00 からは次の特別講演が行われた。

演題:「グローバル化時代における専門企業」

講師: 綜研化学株式会社 取締役会長 中島 幹氏

特別講演の終了後、17:10～18:30 にかけて、2 階/高千穂の間において懇親会を行った。

## 2.2 理事会

### 第1回理事会

日 時:平成26年5月8日(木) 15:30～16:45

場 所:ANAクラウンプラザホテル大阪(3階:飛鳥の間)

(大阪市北区堂島浜1-3-1)

出席者:大川原武会長、山田幸良、増田弘昭、島田啓司各副会長、豊見昭専務理事を含め  
理事27名、監事2名、顧問1名 合計30名

議 事:

第1号議案:入、退会会員について

第2号議案:共催、協賛及び後援行事について

第3号議案:委員会副委員長の新任について

第4号議案:平成26・27年度の理事及び監事について

第5号議案:平成25年度事業報告書、決算報告及び監査報告について

第6号議案:協会賞受賞者、粉体工業功績者及び細川明彦・佐知子基金による粉体工業展  
賞受賞者選考について

第7号議案:協会規定「委員会・部門功労賞表彰規定」の制定について

第8号議案:The 12th International Powder & Bulk Solids Processing Conference& Exhibition(IB  
P2014,上海/中国)にJapanese Pavilionを設ける件について

### 第2回理事会

日 時:平成26年5月27日(火) 14:30～14:55

場 所:東京ガーデンパレス (2階:天空の間)

(東京都文京区湯島1丁目7番5号)

出席者:増田弘昭理事を含め

理事27、監事2名 合計29名

議 事:

第1号議案 会長の選定について

第2号議案 副会長及び専務理事の選定について

第3号議案 常務理事の推薦について

第4号議案 技術情報交流懇話会(火、水、木、金曜会)担当理事の推薦について

第5号議案 顧問及び参与の推薦について

第6号議案 新専務理事に関する件

第7号議案 退任会長の退任慰労金の件

### 第3回理事会

日 時:平成26年8月1日(金) 15:00～16:45

場 所:東京ガーデンパレス (3階:平安の間)

(東京都文京区湯島1丁目7番5号)

出席者:増田弘昭会長、山田幸良、島田啓司、棚橋純一各副会長、豊見昭専務理事を含め  
理事26名、顧問1名 合計27名

議 事:

第1号議案 入、退会会員について

第2号議案 共催、協賛及び後援行事について

第3号議案 委員長の交代、副委員長の新任・交代、分科会副コーディネータの交代について

第4号議案 国際粉体工業展東京2014の実行予算について

第5号議案 日刊工業関西広告社との「粉体技術」誌の販売ならびに同誌広告営業に関する覚書  
締結について

第6号議案 事務局職員の給与改定について

- 第7号議案 事務局職員の異動について
- 報告事項 1 特別協賛会費の申込み状況について
- 報告事項 2 平成26年度の受託事業について
- 報告事項 3 事務局員異動の件
- 報告事項 4 技術交流懇話会(木曜会)の忘年会のあり方について
- 報告事項 5 ワールドインシュアランスブローカーズのE&O保険について
- その他 1)生産性向上設備投資促進税制について  
2)国際粉体工業展東京2014の学生ツアーについて

#### 第4回理事会

日時:平成26年11月19日(水) 13:00~14:45

場所:京都センチュリーホテル (1階:千寿の間)

(京都市下京区東洞院通塩小路下ル東塩小路町680)

出席者:増田弘昭会長、山田幸良、島田啓司各副会長、豊見昭専務理事を含め

理事30名、監事2名 合計32名

議事:

- 第1号議案 入、退会会員について
- 第2号議案 共催、協賛及び後援行事について
- 第3号議案 委員会副委員長の新任について
- 第4号議案 平成26年度分科会功労賞、委員会・部門功労賞の選考について
- 第5号議案 平成27年度協会主要行事日程について
- 第6号議案 粉体工業展大阪2015に係わる粉体工学会との覚書締結について
- 第7号議案 Powder & Bulk Solid India 2015(インドの粉体工業展)と企業視察ツアーについて
- 報告事項 1 平成26年度上期会計報告
- 報告事項 2 平成27年度新個人会員の推薦募集及び入会審査について
- 報告事項 3 平成26年度分科会連絡会議及び委員会・部門連絡会議の開催について
- 報告事項 4 粉体工業展大阪2015の計画概要について
- 報告事項 5ACHEMA2015視察と現地企業視察ツアーについて
- 報告事項 6 ワールドインシュアランスブローカーズのPL保険及びE&O保険の募集について
- 報告事項 7 代表理事及び業務執行理事の職務の執行状況の定期報告について

#### 第5回理事会

日時:平成27年3月18日(火) 13:00~14:45

場所:大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪(4階:平安の間)

(大阪市北区堂島浜1-3-1)

出席者:増田弘昭会長、山田幸良、島田啓司副会長、豊見昭専務理事

を含め理事27名、監事3名、顧問1名、合計31名

議事:

- 第1号議案:入、退会会員について  
(推薦審査委員会からの個人会員・会友の入、退会候補の審議を含む)
- 第2号議案:共催、協賛及び後援行事について
- 第3号議案:委員会の新設について
- 第4号議案:委員会委員長の交代、分科会正副コーディネータ、正副代表幹事の交代、新副代表幹事の新任について
- 第5号議案:平成27年の事業計画及び予算(案)について
- 第6号議案:協会規定「委員会業務所掌規程」及び「分科会規約」「分科会運営に関する覚書」及び「国内出張旅費規定(2)」「国外出張旅費内規」及び「謝礼金等に係わる規程」の一部改定について
- 第7号議案:平成27年度の受託事業について
- 第8号議案:第34回定時総会について
- 第9号議案:海外分科会活動について
- 報告事項 1:国際粉体工業展東京2014の決算報告
- 報告事項 2:平成26年度決算見通しについて
- 報告事項 3:代表理事及び業務執行理事の職務の執行状況の定期報告について
- 報告事項 4:事務局員異動の件
- 報告事項 5:特定資産「創立50周年記念事業積立金」積立ての件

### 2.3 秋期定例会合

日時:平成26年11月19日(水) 15:00~17:00

場所:京都センチュリーホテル(1階:瑞鳳の間)

(京都市下京区東洞院塩小路下ル東塩小路町680)

出席者:増田弘昭会長、山田幸良、島田啓司各副会長、豊見昭専務理事を含め

合計74名

次第:

1. 協会挨拶 会長 増田弘昭
2. ご来賓式辞 経済産業省製造産業局産業機械課 平田卓也氏
3. 平成26年度協会事業の上半期実績報告 専務理事 豊見昭
4. 特別講演  
講演:「千変万化!世界に誇る粉ものの食文化」  
講師:日本コナモン協会 会長 熊谷真菜氏
5. 懇親パーティ(1階・瑞鳳の間)

### 2.4 分科会連絡会議

日時:平成27年1月23日(金) 13:00~18:00

場所:名古屋/名鉄グランドホテル(11階・柏の間) (名古屋市中村区名駅1-2-4)

出席者:増田弘昭会長を含め78名

(司会進行 専務理事 豊見昭)

1. 開会挨拶 会長 増田弘昭
2. 協会からの連絡事項とお願い 事務局長 竹内和
3. 分科会報告 各代表幹事
4. 第10回分科会功労賞、第1回委員会・部門功労賞表彰式 会長 増田弘昭
5. 分科会自由情報交換会 分科会運営委員会
6. 総合討議 分科会運営委員会
7. 閉会挨拶 副会長 山田幸良

第10回分科会功労賞は9名の方々が受賞された。(9頁 4.5 分科会功労賞、4.6 委員会・部門功労賞を参照)

会議終了後、11階柏の間において18:10~20:00の間、分科会連絡会議および委員会・部門連絡会議参加のメンバーによる懇親会と自由情報交換会が行われた。

### 2.5 委員会・部門連絡会議

日時:平成27年1月24日(土) 9:30~15:30

場所:名古屋/名鉄グランドホテル(11階・柏の間)

出席者:増田弘昭会長を含め37名

(司会進行 専務理事 豊見昭)

1. 開会挨拶 会長 増田弘昭
2. 協会からの報告と連絡事項 専務理事 豊見昭
3. 各委員会・部門の現状と平成27年度の計画について 各委員会・部門代表
4. その他(委員会運営に係わる全般事項等の討議)
5. 閉会挨拶 副会長 棚橋純一

### 2.6 委員長連絡会

第1回 (通算59回) 平成26年6月25日(水) 名古屋/出席者15名

第2回 (通算60回) 平成26年9月4日(木) 大阪/出席者17名

### 2.7 常務会

第1回 (通算42回) 平成26年4月8日(火) 東京/出席者9名

第2回 (通算43回) 平成26年7月8日(火) 東京/出席者10名

第3回 (通算44回) 平成26年11月5日(水) 名古屋/出席者10名

第4回 (通算45回) 平成27年3月5日(木) 大阪/出席者9名



## 2.8 監査会

日 時:平成 26 年 4 月 26 日(金) 13:30~15:30

場 所:京都/協会本部会議室

出席者:新井英植監事、田畑信行監事、中川晴雄監事  
豊見専務理事、竹内事務局長、山田経理担当

議 事:平成 25 年度正味財産増減計画書、貸借対照表、公益目的支出計画実施報告書の  
監査並びに業務監査

## 3. 会 員

### 3.1 会員数

	平成 25 年度 終了時	平成 26 年度		
		入 会	退 会	終了時
正会員	350	12	12	350
法人	275	10	10	275
個人	75	2	2	75
賛助会員	7			7
合 計	357	12	12	357

(平成 27 年 3 月 31 日付)

### 3.2 入会者

1) 法人会員(10 社)

①日空工業(株)、②エスオーエンジニアリング(株)、③(株)翔和④日本製粉(株)、⑤大真工業(株)、⑥(株)石川工場  
⑦リックス(株)、⑧住友金属鉱山(株)⑨荏原環境プラント(株)、⑩ヤマカ陶料(株)

2) 個人会員(2 名)

大嶋寛氏、福井国博氏

3) 会友(2 名)

藤井清彦氏、鈴木昭明氏

4) 名誉個人(1 名)

北村光孝氏

### 3.3 退会者

1) 法人会員(10 社)

①川崎重工業(株)、②佐藤薬品工業(株)、③(株)東京製粉機製作所、④泉(株)、⑤(株)常光、⑥日機装(株)、  
⑦不二パウダル(株)、⑧吉田機械興業(株)、⑨(公財)塩事業センター、⑩ポーラ化成工業(株)

2) 個人会員 (2 名)

杉田稔氏、田森行男氏

## 4. 表 彰

平成 26 年 5 月 27 日(火)、第 33 回定時総会に引続き、第 28 回協会賞授賞式、第 8 回大阪粉体工業展賞なら  
びに第 28 回粉体工業功績者の各表彰式を行った。又、平成 27 年 1 月 23 日、分科会連絡会議の席上において、  
第 10 回分科会功労賞、第 1 回委員会部門功労賞の授与式を行った。

### 4.1 協会賞(第 28 回)

功労賞 該当者なし

技術賞 森 康維氏 (同志社大学)

### 4.2 粉体工業展賞(第 21 回)〔細川明彦・佐知子基金補助〕

該当者なし

### 4.3 大阪粉体工業展賞(第 8 回)〔細川明彦・佐知子基金補助〕

神谷昌岳氏(株)マキノ)

#### 4.4 粉体工業功績者表彰(第28回)

【表彰項目別・法人会員名簿順】

No.	所属名	氏名	項目	No.	所属名	氏名	項目
1	麻益(株)	木村 勇男	技術	17	ツカサ工業(株)	山本 友裕	製造
2	(株)タナベ	桑原 亨	技術	18	東洋ハイテック(株)	近藤 次郎	製造
3	(株)東洋紡カンキョーテクノ	奥山 明照	技術	19	日清エンジニアリング(株)	藤田 透	製造
4	(株)奈良機械製作所	和泉 貴広	技術	20	日清エンジニアリング(株)	中込 修一	製造
5	(株)西村機械製作所	大岩 隆	技術	21	(株)日清製粉グループ本社	林川 重幸	製造
6	(株)パウレック	松浦 八司	技術	22	日本エアフィルター(株)	内海 悦則	製造
7	明治機械(株)	阿部 文則	技術	23	フロイント産業(株)	宮島 弘	製造
8	三興空気装置(株)	浜田 雅浩	生産	24	ライオン(株)	篠崎 宏巳	製造
9	中央化工機(株)	山本信治郎	生産	25	(株)島津製作所	正津 大介	営業
10	真鍋工業(株)	谷内 浩一	生産	26	新東工業(株)	磯貝 千之	営業
11	赤武エンジニアリング(株)	白鳥 浩	製造	27	(株)ダルトン	楠原 淳治	営業
12	エステック(株)	串田 忠重	製造	28	藤崎電機(株)	大前 洋一	営業
13	クノール食品(株)	青山 克美	製造	29	不二パウダル(株)	進藤 学	営業
14	(株)栗本鐵工所	竹内 康則	製造	30	ホーコス(株)	三田 比呂志	営業
15	塩野義製薬(株)	下山 孝幸	製造	31	ホソカワミクロン(株)	前川 薫	営業
16	(株)品川工業所	跡部 幸雄	製造	32	(株)マキノ	岩川 義廣	営業

(表彰項目内訳:技術開発 7名、生産管理 3名、製造技術 14名、営業活動 8名、計32名)

#### 4.5 分科会功労賞(第10回)

(氏名 50音順)

No.	氏名	分科会名	会社名
1	伊藤 有一	粒子加工技術分科会	信越化学工業(株)
2	海老原 裕之	粉体ハンドリング分科会	日清エンジニアリング(株)
3	小笹 雅之	粉碎分科会	ホソカワミクロン(株)
4	佐藤 一彦	分級ふるい分け分科会	晃栄産業株式会社
5	田頭 成能	環境エネルギー・流動化分科会	(株)神鋼環境ソリューション
6	畠中 伸	静電気利用技術分科会	ホソカワミクロン(株)
7	正岡 功士	晶析分科会	(公財)塩事業センター
8	松井 孝太郎	造粒分科会	ライオン(株)
9	六車 嘉貢	混合・成形分科会	塩野義製薬(株)

#### 4.6 委員会・部門功労賞(第1回)

No.	氏名	委員会名	会社名
1	小波 盛佳	「粉体技術」編集委員会	フルード工業(株)
2	島村 英生	粉じん爆発委員会	(株)環境衛生研究所

(敬称略)

### 5. 粉体工業展

#### 5.1 国際粉体工業展東京 2014 (第20回)

##### 5.1.1 概要

開催テーマ:この一粒・・・夢をかたちにー粉の技術ー

会期:2014年11月26日(水)-28日(金) 10:00-18:00(28日は10:00-17:00)

会場:東京ビッグサイト 東1・2・3ホールおよび会議棟

主催:(一社)日本粉体工業技術協会

後援:農林水産省、文部科学省、環境省、(独)産業技術総合研究所、

(独)労働安全衛生総合研究所、(独)日本貿易振興機構(ジェトロ)

特別協賛:粉体工学会、(公社)化学工学会、(一社)製剤機械技術学会、日刊工業新聞社、

## フジサンケイ ビジネスアイ

### 協 賛:

塩ビ工業・環境協会	カーボンブラック協会	(一財)化学研究評価機構
化成品工業協会	環境資源工学会	(一財)機械振興協会
合成ゴム工業会	骨材資源工学会	材料技術研究協会
(公社)産業安全技術協会	(一社)産業環境管理協会	(一社)色材協会
(一社)資源・素材学会	人工軽量骨材(ALA)協会	製粉協会
石油化学工業協会	石灰石鉱業協会	(一社)セメント協会
耐火物技術協会	タングステン・モリブデン工業会	(一社)電池工業会
東京科学機器協会	ナノ学会	(一社)ナノテクノロジー・ビジネス推進協議会
日本エアロゾル学会	(一社)日本化学工業協会	(一社)日本機械学会
(公社)日本空気清浄協会	(一社)日本計量機器工業連合会	(公社)日本下水道協会
(一社)日本建設機械施工協会	(一社)日本砕石協会	(公社)日本材料学会、
(一社)日本産業機械工業会	(一社)日本試薬協会	(一社)日本食品機械工業会
(一社)日本食品工学会	(公社)日本水道協会	日本製薬工業協会
日本製薬団体連合会	日本石灰協会	日本石鹼洗剤工業会
(公社)日本セラミックス協会、	(一社)日本鉄鋼協会	(一社)日本電気計測器工業会
日本塗装技術協会	(一社)日本塗料工業会、	(一社)日本乳業協会
日本粘土学会	(一社)日本農業機械工業会	日本肥料アンモニア協会
(一)日本ファインセラミックス協会	日本プラスチック工業連盟	日本フレキシブルコンテナ工業会
日本粉末冶金工業会	日本無機薬品協会	日本薬科機器協会
(一社)ニューガラスフォーラム	(一社)表面技術協会	(一財)ファインセラミックスセンター
(一社)粉体粉末冶金協会		

海外協賛: 中国顆粒学会、中国粉体技術協会、ニュルンベルクメッセインド、ニュルンベルクメッセ中国社、UBM Canon、The Powder/Bulk Portal

展示規模: 314 社・団体/1006 小間

来場者: 14,726 名 (登録入場者数)

### 同時開催:

- 粉体工学会 秋期研究発表会(主催:粉体工学会)  
会期: 11月25日(火)、11月26日(水)  
会場: 東京ビッグサイト 会議棟  
参加者数: 230名

### 併催企画:

- 学生ツアー&交流会(企画:(一社)日本粉体工業技術協会 人材育成委員会)  
日時: 11月26日(水) 9:00~13:00  
場所: 学生ツアー「粉体工業展大阪2014」会場  
参加者数: 学生ツアー 95名 (内訳: 学校 45名、企業 30名、関係者 20名)  
学生交流会 105名 (内訳: 学校 45名、企業 30名、関係者 30名)
- 製品技術説明会  
会期: 11月26日(水)-28日(金)  
会場: 展示会場内 1号館 A ルーム・B ルーム・C ルーム  
セッション数: 63 (各テーマ 30分)  
参加者: 延べ 2,815名
- 特別展示ゾーン 出展社プレゼンテーション  
会期: 11月26日(水)-28日(金)  
会場: 展示会場内 第2会場  
参加者: 延べ 180名
- アカデミックコーナー (プレゼンテーションとポスターセッション)  
日時: 11月27日(木)  
10:30-11:45 プレゼンテーション 会場: 展示会場内 第2会場  
11:45-12:30 ポスターセッション 会場: 粉の広場  
12:30-14:00 表彰式 会場: 東1ホール主催者事務室

参加者:61名

◆優秀研究賞 日本大学 理工学部 機械工学科 河府賢治 氏

◆研究奨励賞 大阪大学 産業科学研究所 長島一樹 氏

東京大学大学院 工学系研究科 脇原徹 氏

□粉体シミュレーションの動画紹介

大学および粉体シミュレーションゾーン出展社より、粉体シミュレーションに関する動画を提供いただき、粉の広場内3箇所、および粉体シミュレーションゾーン内1箇所ですべて連日放映した。

□3Dプリンタと粉体材料

3Dプリンタの試作品の展示、材料との関わりを紹介した。

## 併催セミナー・フォーラム

□特別講演

日時:11月26日(水)15:00~16:30

場所:東京ビッグサイト 会議棟 605・606 会議室

参加者:84名

講演者:東京大学 大学院工学系研究科 原子力国際専攻 教授 藤井康正 氏

「エネルギーのベストミックス」

□セミナー

◆最新情報フォーラム「ナノマテリアル」【ナノテクノロジーが拓く未来】

日時:10月10日(木) 11月26日(水) 13:00~15:00

場所:展示会場内 第1会場

参加者:172名

◆最新情報フォーラム「食品」【食の安全・安心を支える粉体技術】

日時:11月27日(木) 10:30~12:30

場所:展示会場内 第1会場

参加者:176名

◆最新情報フォーラム

「二次電池」【これからの日本のエネルギーを考える(二次電池、燃料電池の役割)】

日時:11月27日(木) 14:30~17:30

場所:展示会場内 第1会場

参加者:227名

◆最新情報フォーラム「3Dプリンタ」【積層造形技術における粉体材料の新展開】

日時:11月28日(金) 10:30~12:30

場所:展示会場内 第1会場

参加者:247名

◆最新情報フォーラム

「粉体シミュレーション」

【粉体シミュレーションの最前線:最先端の数値解析手法と大学・企業での応用事例】

日時:11月28日(金)13:00~15:55

場所:展示会場内 第1会場

参加者:247名

◆粉体工学入門セミナー(入門の入門編)

日時:11月26日(水)10:30~12:00

場所:展示会場内 第1会場

参加者:285名

日時:11月28日(金)10:30~12:00

場所:展示会場内 第2会場

参加者:169名

◆ナノ物質の安全な取り扱いに関するセミナー

日時:11月27日(木)10:30~12:30

場所:東京ビッグサイト 会議棟 101 会議室

参加者:66名

◆アジアフォーラム『多国間貿易時代に生きる我国産業』

日時:11月27日(木)13:00~17:00

場所:東京ビッグサイト 会議棟 607 会議室

参加者:64 名

◆海外情報セミナー『インドネシア進出における問題を探る－実績と体験談－』

日時: 11月28日(金)13:00～15:40

場所:東京ビッグサイト 会議棟 607 会議室

参加者:124 名

◆粉じん爆発情報セミナー(学術情報/規制・技術情報/爆発災害情報/質疑応答)

日時:11月28日(金)13:30～16:30

場所:東京ビッグサイト 会議棟 605・606 会議室

参加者:120 名

### 5.1.2 オープニングセレモニー

日時:11月26日(水) 9:50～

会場:東京ビッグサイト「国際粉体工業展東京2014」東3ホール受付前

主催者挨拶 日本粉体工業技術協会 会長 増田弘昭 氏

テープカット:全4名

### 5.1.3 開催記念レセプション

日時:11月26日(水) 18:30～

会場:東京ビッグサイト(レセプションホール)

参加者:約270名

### 5.1.4 技術相談コーナー

会期:11月26日(水)～28日(金)の3日間

場所:粉の広場内

相談件数:84件(各日4名の相談員にて対応)

### 5.1.5 主催者コーナー

・協会活動案内

協会の事業方針、活動方針の案内、協会誌“粉体技術”の紹介をはじめ、各種資料の配布を行った。

・分科会コーナー

19分科会が、最近の技術課題と展望(近未来技術)および各分科会の活動報告と次年度の活動計画をポスターで展示した。

・標準粉体展示コーナー

粉体物性測定装置や各種集塵装置の性能の評価に用いられる標準粉体のカタログを展示した。

・協会誌“粉体技術”の紹介

### 5.1.6 インフォメーションカウンター(三カ国語通訳常駐)

今回新たに英語、中国語、韓国語の通訳3名が3日間常駐するインフォメーションカウンターを設け、来訪者に対してアテンドを行った。

### 5.1.7 カタログ展示コーナー

入場登録の際に受付で交付するバーコードIDパスを用いて、カタログ請求できるシステムを採用し、新製品・新技術:6社6種類 ロングセラー製品:4社4種類 その他1社1種類のカタログが展示された。

### 5.1.8 粉体技術総覧2014/2015の発刊

粉粒体機械、粉粒体物性測定及び研究用機器、粉粒体機器用付属材料、粉粒体FA・計測・計量、機能性粉体材料など、粉粒体に関するあらゆる分野の情報が集約された「粉体技術総覧 2014/2015」を冊子およびCD-ROMで発刊し、会場において来場者に無料で配布した。

## 6. 常置委員会

### 6.1 総務委員会（赤堀肇紀委員長、杉田稔、棚橋純一各副委員長）

#### 1. 平成 26 年度の事業実績概要

##### 1-1. 【協会ホームページの作成、管理及び維持】

1)協会ホームページ(和文)のリニューアルを 11 月完了した。併せてその案内文を作成し会員に配布した。今後、英文作成と必要に応じた改善を進めていく。

##### 1-2. 【協会広報活動の推進】

- 1)「事業案内 2015/2016 年度版」の作成・発行した。(和文 700、英文 300)
- 2)APPIEメールマガジンの発信を継続した。(発信数 50,598 通 前年対比約 11%増)
- 3)海外情報セミナーの開催

##### ①第2回海外情報セミナー【有料】を開催した。

- ・開催日:平成 26 年 6 月 6 日(金) ・場所:㈱日清製粉グループ本社会議室
- ・テーマ:中国で知的財産は守れるのか? ~実績と体験談~
- ・講演者:6名 ・参加者数:64 名(有料参加者 45 名)・懇親会を実施した。
- ・アンケート実施:取り上げてほしい国はベトナムが最も多かった。

##### ②第3回海外情報セミナー【無料】を開催した。

- ・開催日:平成 26 年 11 月 28 日(金)国際粉体工業展東京2014
  - ・場所:東京ビッグサイト会議棟
  - ・テーマ:インドネシア進出における問題を探る~実績と体験談~
  - ・講演者:3 名 ・聴講者:114 名
  - ・アンケート実施:第 5 回はインドの希望が多数であった。
- 備考)第1回は、“中国進出における問題を探る”をテーマにH25 年 11 月実施した。

##### 1-3. 【法人会員増強の推進】

- 1)「国際粉体工業展東京2014」に出展された非会員会社を訪問した。
  - ・23 社のブースを訪問し、内1社が入会希望を表明された。
- 2)過去 3 年間の入退会リストを作成し、入会理由・退会理由を把握し増強と退会防止について討議した。
- 3)技術交流懇話会で新会員の 5 分間プレゼンや新会員とゲストの自己紹介を実施

#### 2. 実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.5.16	京都/メルパルク京都	14	1.活性化小委員会からの報告 2.海外情報 WG からの報告 3.ホームページ改定について 4.事業案内の改定について 5.粉体技術編集委員会への参画について 6.今後の名簿発刊について 7.5 年誌の今後について 8.中部パックの件報告
2	H26.8.1	東京/東京ガーデンパレス	12	1.委員長連絡会議の報告 2.活性化小委員会からの報告 3.海外情報 WG からの報告 4.ホームページの改定について 5.事業案内について 6.FOOMA JAPAN2014 について報告 7.国際粉体工業展東京 2014 における入会勧誘来訪について 5.50 周年記念事業について理事会での審議結果報告
3	H26.12.4	大阪/ANA クラウンプラザホテル大阪	12	1.活性化小委員会からの報告 2.海外情報 WG からの報告 3.ホームページ改定について 4.事業案内の改定(H27 年度版)について 5.今後(H28 年度以降)名簿発刊について 6.次年度の活動について(予算の確認) 7.粉体技術を読んで(7~12 月号)について

#### (WG 委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.5.8	大阪/塩野義製薬株式会社 会議室	6	1. 第 2 回 海外情報セミナー(6 月 6 日)の確認
2	H27.2.18	名古屋/名鉄ニュー	4	1. 第 4 回海外情報セミナーについて

	グランドホテル		2. 第5回海外情報セミナーについて
--	---------	--	--------------------

## 6.2 技術委員会（山田幸良委員長、牧野尚夫副委員長）

### 1.平成26年度の事業実績概要

- 1)現在、技術委員会傘下に「技術用語検討委員会」と「ナノ物質検討委員会」がある。「ナノ物質の検討と対応について」は[リスク面]と[利用面]があるが、現「ナノ物質検討委員会」は[リスク面]で活動している。[利用面]に関しては、「分科会運営委員会」と「微粒子ナノテク分科会」で試行錯誤中であつたが、協会全体として取組むこととなり「ナノ粒子利用技術委員会」を平成27年度より発足することになった。これに伴い現「ナノ物質検討委員会」は「ナノ粒子安全性技術委員会」と改称することになる。
- 2)「ナノ粒子利用技術委員会」は、委員長：奥山喜久夫氏(広島大学大学院)、副委員長：伊ヶ崎文和氏(産総研)と福井武久氏(栗本鐵工所)にお願いし、準備委員会を2回実施した。  
— 下表(準備委員会)参照 —
- 3)協会法人会員が発表できる場の提供としては、粉体工学会の“秋期研究発表会”の「技術セッション」がある。より充実させるべく委員会設置の意見もあつたが、継続審議とした。
- 4)技術委員会の新体制：5/27の第33回定時総会で、前増田委員長の会長就任により、新委員長：山田幸良氏(副会長：技術担当)、副委員長：牧野尚夫氏(電中研)でスタートした。

### 2.実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.8.1	東京/東京ガーデンパレス	3	1.「ナノ物質の検討と対応」について…「利用面」と「リスク面」 2.協会法人会員が発表できる場の提供について 3.技術委員会の新体制について

#### (準備委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.10.16	京都/協会本部会議室	4	1. ナノ物質利用技術委員会(仮称)設立の経緯 2. 委員会名称 … “ナノ物質利用技術委員会”とする 3. 委員長・副委員長・委員の選出について 4. 業務所掌 5. 今後の進め方 6.その他
2	H26.11.27	東京/東京ビッグサイト展示会2階 東1商談室(4)	8	1.委員会の名称 2.今後の進め方(委員会目的などの基本事項の議論) 3.委員の選出 4.その他

### 6.2.1 技術用語検討委員会（牧野尚夫委員長）

#### 1.平成26年度の事業実績概要

- 1)委員会の構成；委員長：牧野尚夫、委員：遠藤茂寿、山田昌治、特別委員：増田弘昭
- 2)第1回委員会(2.項の表参照)；粉体用語集「粉体用語ポケットブック」の書籍化に関し、書籍名・体裁・構成・総用語集・販売計画などについて討議した。[書籍名は前記、新書版、初版2,000部、本体価格1,800円、総用語数1,500語、総頁数180～190頁(9語/頁)の予定]
- 3)用語数の絞込み、執筆者の選考・依頼などは、委員間のメール遣り取りで進めている(当初選定した用語数約2,500語を、頁数に合せ1,500語に絞込む。削除候補用語の一時選定は終了し、現在は最終確認を実施中)。
- 4)平成26年度中(～H27,3,31)に、用語数の絞込みと執筆者の選考・執筆依頼を完了の予定。

#### 2.実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.10.10	京都/京都本部	7	「粉体用語集」発行に当たり、体裁・構成・販売計画などについての討議

### 6.2.2 ナノ物質検討委員会（明星敏彦委員長、遠藤茂寿、近藤郁各副委員長）

#### 1.平成26年度の事業実績概要

##### 1)第1回ナノ物質検討委員会

・議題は2.項の表参照

・ナノ粒子の検討・対応については「リスク面」と「利用面」がある。当委員会は「リスク面」からナノ物質を検討してきた。次年度より「利用面」からナノ粒子を検討すべき新たな委員会「ナノ粒子利用技術委員会」が設立される。

これに伴い当委員会は「ナノ粒子安全性検討委員会」と改称する。

2)第2回ナノ物質検討委員会

・議題は2.項の表 参照

3)ナノ物質の安全な取扱いに関するセミナー(国際粉体工業展東京 2014 併催行事)

・日時、場所:H26,11,27,10:30~12:30、東京ビッグサイト会議棟 101 会議室

・演題、演者:1)「ナノラベリング規格について」

(独)産業技術総合研究所 田中 充 氏

2)「ナノマテリアル取扱職場のばく露・作業環境評価」

(独)労働安全衛生総合研究所 鷹屋光俊 氏

3)「呼吸用保護具の防護係数について」

興研(株) 木村一志 氏

・参加者 :66名

2.実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.10.27	京都/メルパルク京都	12	1.前回議事録の確認 及び 委員長連絡会報告 2. 国際粉体工業展東京 2014「ナノ物質の安全な取扱いに関するセミナー」について 3. 分科会活動との連携について 4. 他団体(NBCIなど)の活動状況 5. その他
2	H27.3.24	京都/メルパルク京都	11	1.H27 年度の事業活動について 2.粉工展大阪 2015 のセミナーについて 3. 集じん装置のナノ粒子分離性能の研究 4. その他

6.3 「粉体技術」編集委員会 (大矢仁史委員長、鈴木道隆、谷正美各副委員長)

1. 平成 26 年度の事業実績概要

協会月刊誌「粉体技術」の発行 各号は特集として。

平成 26 年 4月号 協会を支える分科会活動

5月号 農薬製剤と散布技術

6月号 実粉体プロセスへのシミュレーションの適用

7月号 薬物の安全・産業衛生

8月号 エネルギー特集号

9月号 人間の体・五感に関連する造粒技術

10月号 乾燥技術特集

11月号 モノづくりを3D 化

12月号 動き出した国家戦略特別区域

平成 27 年 1月号 企業における人材活用戦略

2月号 さらに環境対策の高度化に貢献する集じん技術

3月号 国際粉体工業展東京2014を終えて

2.実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.14	東京/東京八重洲ホール	15	1. 議事録、小委員会議事録の確認 2. 7月号以降の確認と進捗状況について 3. 入門講座について 4. 既刊号(3,4,5,6月号)を振り返って 5. その他
2	H27.9.5~6	京都/京都トラベラーズイン	23	1. 10月号以降の特集進捗状況確認 2. 一般記事、入門講座、現場ルポ、先達の言葉について 3. 27年度表紙デザイン 4. 小委員会、協会からのお願い 5. 議事録、小委員会議事録の確認 6. 既刊号(7,8,9月号)を振り返って 7. 平成28年度8月号までの特集内容、担当者の決定 8. その他
3	H26.11.29	東京/東京八重洲ホール	19	1. 議事録、小委員会議事録の確認 2. 1月号以降の進捗状況確認



				3. 一般記事の状況説明と現場ルポ、先達の言葉対談候補について 4. 既刊号(10,11月号)を振り返って 5. その他
4	H27.3.14	京都/メルパルク京都	15	1. 議事録、小委員会議事録の確認 2. 4月号以降の進捗状況確認 3. 既刊号(10,11月号)を振り返って 4. その他

(小委員会)

各号の記事を確認し、本誌の編集をおこなうために毎月編集小委員会を京都本部で開催した。

#### 6.4 推薦審査委員会 (加藤文雄委員長、赤堀肇紀副委員長)

##### 1.平成 26 年度の事業実績概要

- 1)年 3 回の会合で、各賞の表彰規定に則り、審査業務を実施してきた。
- 2)内規を制定した。
- 3)「委員会・部門功労賞」が設けられた。

##### 2.実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.10.24	京都/京都本部	7	1.前回議事録の確認について 2.分科会功労賞および委員会・部門功労賞選考について 3.KONA賞受賞候補者の推薦について(報告) 4.その他
2	H27.1.16	京都/京都本部	8	1. 個人会員候補者の選考について 2.会友候補者の選考について 3. 個人会員の名誉個人会員への移行について 4.その他
3	H27.3.27	京都/京都本部	8	1. 協会賞候補者の選考審査について 2.粉体工業展賞候補者の選考審査について 3.粉体工業功績者候補の選考審査について 4.その他

#### 6.5 粉体工業展委員会 (増田弘昭委員長、谷本友秀、菅原一博各副委員長)

##### 1.平成 26 年度の事業実績概要

- 1) 2014 中部バック参加;
  - ・4月9(水)～12(土)、ポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)
  - ・包装・食品・物流機械・関連機器、包材、食材等の総合展
  - ・協会ブース2小間にて、ポスター展示とパンフ&チラシ配布した
  - ・来場者:4日間で25名
- 2) FOOMA JAPAN 2014(国際食品工業展)参加
  - ・6月10(火)～13(金)、東京ビッグサイト
  - ・食品機械を中心に原料処理から製造、物流にいたるまで食品製造プロセスのすべてを網羅したアジア最大級の「食」の総合展
  - ・協会ブース1小間にて、ポスター展示とパンフ&チラシ配布した
  - ・来場者:4日間で101名
- 3)国際粉体工業展東京 2014 を開催(詳細は東京粉体工業展委員会より)
  - ・H26年11月26日(水)～28日(金)の3日間、東京ビッグサイト東ホール
  - ・開催規模:314社・団体/1,006小間(前回:296社・団体/1,001小間)
  - ・来場者:14,726名(前回:15,965名)
  - ・前回に比し、開催規模は増なるも、来場者は減であった。但し、出展社の反応としては「来場者の感触は極めて良好」との声が多かった。

#### 6.5.1 東京粉体工業展委員会 (谷本友秀委員長、大川原正明、村田博各副委員長)

##### 1.平成 26 年度の事業実績概要

国際粉体工業展東京 2014(第20回)を成功裏に終了することが出来た。

実績概要は以下の通り。【 】内は前回 2012 実績

開催日時:平成 26 年 11 月 26 日(水)～28 日(金) 10:00～18:00(28 日は 17:00 まで)

会 場:東京ビッグサイト 東 1・2・3 ホール及び会議棟

出展社数:314社・団体【296】

内訳 会員118【123】、一般189【168】、団体7【5】

出展小間数:1,006小間【1,001】

内訳 会員593【606】、一般246【229】、主催者関連167【166】

来場者数:14,726名【15,965名】

内訳 26日4,007名、27日4,886名、28日5,833名(内、海外来場者は17カ国291名)

併催行事参加者:最新情報フォーラム等 11イベント、延参加者数 2,008名

## 2.実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.4.15	東京/種苗会館 6階会議室	20	1. 出展促進計画(出展・来場促進小委員会からの報告と検討) 2. 広報活動計画(広報小委員会からの報告と検討) 3. 併催行事企画経過報告と検討 特別講演、国際行事、最新情報フォーラム、粉体工学入門セミナー、ナノ物質の安全な取り扱いに関するセミナー、粉じん爆発情報セミナー等 進捗状況 4. その他
2	H26.7.10	東京/種苗会館 6階会議室	19	1. 出展促進・広報活動計画(出展・来場促進/広報合同小委員会からの報告と検討) 2. 併催行事企画の企画進捗状況(各担当委員報告と確認) 特別講演、国際行事、最新情報フォーラム、粉体工学入門セミナー、ナノ物質の安全な取り扱いに関するセミナー、粉じん爆発情報セミナー 3. 粉の広場企画 4. カタログ展示コーナー 5. その他 ・同時期開催展示会 ・後援・特別協賛・協賛・海外協賛リスト 承諾状況 ・出展社説明会について
3	H26.9.16	東京/種苗会館 6階会議室	22	1. 開催規模と会場レイアウト 2. 広報・宣伝計画について ・広報小委員会からの報告 ・招待状レイアウトの確認 3. 併催行事計画の企画進行状況確認(各担当委員からの報告と確認) 4. オープニングセレモニー、開催記念レセプション計画 5. 会場運営実行委員の依頼 6. その他
4	H26.10.27	東京/本郷ファーストビル 8階会議室	22	1. 広報企画と実施計画について ・広報小委員会からの報告 2. 開催規模とレイアウトについて 3. 併催行事について 4. 粉の広場企画 5. 各種アンケートについて (モニター登録者用、セミナー聴講者用、出展社用) 6. その他 ・ユニフォームサイズ確認
5	H26.12.19	ホテル機山館	29	会場運営実行委員会と合同反省会
6	H27. 2.13	箱根湯本「天成園」	25	最終委員会(反省会・慰労会)

(小委員会)

### 出展・来場促進

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.4.15	東京/協会東京事務所会議室	11	1.出展状況報告 2.区分別リスト確認 3.会員企業 前回未出展企業への出展促進 4.出展促進活動確認 5.特別ゾーン(食の安全・安心、シミュレーション)開催概要確認
2	H26.7.10	東京/種苗会館 6階会議室	16	1.広報関係状況 2.出展状況

				3.今後の出展促進・広報活動計画 4.その他
3	H26.8.21	東京/ 種苗会館 6階会議室	9	1. 広報企画と実施計画について 2. その他

広報小委員会

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.8.21	東京/ 種苗会館 6階会議室	9	1. 広報企画と実施計画について 2. その他
2	H26.10.27	東京/本郷ファースト ビル8F 会議室	12	1.広報企画と実施について 2.その他

会場構成(小間割)検討会

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.8.21	東京/ 種苗会館 6階会議室	13	1.7月10日委員会後の出展促進活動報告 2.出展状況確認 3.会場小間割検討・承認 4.特別展示ゾーンレイアウト検討・承認

会場運営実行委員会

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.10.20	東京/ 種苗会館 6階会議室	23	1.開催規模報告 2.会場構成 3.会場運営実行委員会マニュアル 4.ユニフォームサイズ確認

**6.5.2 大阪粉体工業展委員会** (菅原一博委員長、加藤文雄、高倉正紀各副委員長)

1.平成26年度の事業実績概要

粉体工業展大阪2015開催に向けて、委員会活動を開始した。

◎委員会構成:

本委員会…委員長:菅原一博、副委員長:加藤文雄、高倉正紀、アドバイザー:島田啓司  
 会計監査:吉留信博、委員:17名、事務局2名、展示会事務局3名(CNT)  
 小委員会…(出展促進)主査:加藤文雄、(会場運営)主査:高倉正紀、  
 (併催行事企画)主査:神谷昌岳 (広報)主査:谷正美

2.実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.7.2	京都/ホテルセント ノーム京都	22	1.委員会構成について 2.会期・会場について 3.開催概要について 4.会期までの大枠スケジュールについて 5.併催イベントについて 6.ポスター 募集案内のデザインについて
2	H26.10.28	京都/メルパルク 京都	26	1.開催要項・申込書類について 2. 展示会場構成図 3. 出展促進について 4.併催イベントについて
3	H27.2.17	京都/メルパルク 京都	25	1.出展促進委員会からの報告、出展情報報告 2.併催イベントについて 各イベントの進捗状況報告 3.出版、海外団体への対応 4.その他

(小委員会)

併催行事企画小委員会

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.10.28	京都/メルパルク 京都	14	併催行事の検討 特別講演、最新情報フォーラム、粉のネットワーク、こなもんこ とはじめ、粉じん爆発情報セミナー、ナノ物質の取扱いに関 するセミナー

出展促進小委員会

回	日程	場所	人数	議題
1	H27.2.17	京都/メルパルク	16	1.出展状況報告

	京都		2.今後の出展促進計画について
--	----	--	-----------------

### 6.6 分科会運営委員会（杉田稔委員長、伊ヶ崎文和、伊藤正康各副委員長）

#### 1.平成 26 年度の事業実績概要

- 1)粉体技術4月号にて「協会活動の重要な事業活動」である分科会活動を、判り易く興味を持って読んでいただく為、表形式等を用いて活動の内容を表示して頂き紹介した。
- 2)「ユーザー視点と実際の設計に役立つ分科会活動」を標榜して、幾つかの分科会で各分科会活動の成果を出版や刊行物にする活動が進められている。
- 3)年4回の委員会を開催し、拡大分科会運営委員会では協会幹部や全分科会の代表の参加を得て、運営上の諸問題について討議をし、解決方法等の共有化を図った。
- 4)「ナノ物質に関連する技術テーマの抽出と今後の取り組み方について」数年に亘って関連分科会の協力の下に推進してきたが、技術委員会の下部組織として「ナノ粒子利用技術委員会」として来年度より発足することとなった。
- 5)各分科会の活動内容の把握と今後の運営を検討する上で、各委員が担当分科会を持ち、分科会に参加しモニタリングを実施した(分科会再編等の検討資料としても活用)。
- 6)今年もコーディネータや代表幹事が交代した3分科会についてヒアリングを実施し、スムーズな運営が行えるようにアドバイスを与えた。
- 7)19分科会体制についての検討を開始した。

#### 2.実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.7.5	名古屋/安保ホール	10	1. 新委員の自己紹介 2. 前回議事録(平成 26 年度第 4 回委員会)の確認 3. 平成 26 年度の事業計画の確認 4. 平成 26 年度拡大分科会運営委員会及びヒアリングの進め方について 5. その他
2	H26.8.22	京都/メルパルク 京都 4 階	33	1.平成 26 年度、各分科会の活動進捗と課題 2.分科会の現状と今後(分科会活動報告に基づいて) 3.分科会ヒアリング結果報告 4.分科会から提起された課題と総合討議 5.「ナノ物質の検討と対応」について
3	H26.11.8	名古屋/安保ホール	10	1.ナノ物質の検討と対応について 2.正副コーディネータの問題について 3.拡大分科会運営委員会とヒアリングにて提起された問題点の整理と検討 4.委員長連絡会議での討議報告 5.19分科会体制について 6.分科会連絡会議の次第と役割分担について 7.その他
4	H27.3.8	名古屋/安保ホール	10	1. 分科会連絡会議(1/23)を振り返って 2. 平成 27 年度の活動に関して(1/24 委員長連絡会議報告他) 3.分科会合理化検討シートについて

(分科会ヒアリング)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.8.22	京都/メルパルク 京都 4 階会議室 2	18	3 分科会ヒアリング 造粒分科会、晶析分科会、電池製造技術分科会

### 6.7 海外交流委員会（辻裕委員長、松本幹治、赤堀肇紀各副委員長）

#### 1.平成 26 年度の事業実績概要

- 1) 以下の展示会主催者と国際粉体工業展東京 2014 との協力関係促進のため、相互協力契約を締結。内容は、無料ブース提供、バナー広告掲載等。
  - UBM Canon 社:International Powder & Bulk Solids 2014(略称:PBS 2014)(2014.5.6-8)
  - NürnbergMesse China 社:The 12th International Powder & Bulk Solids Processing Conference & Exhibition(略称:IPB 2014)(2014.10.14-16)
  - NürnbergMesse India 社:Powder & Bulk Solids India 2015(略称:PBSI 2015)(2015.2.18-20)
- 2) International Powder & Bulk Solids 2014(5月 6-8 日、米国・ローズモント)

辻委員長参加。協会ブースの設営、同時開催会議にてパネル討論 (APPIE の活動を紹介)

- 3) APPIE annual REPORT 2013 の作成、発行 (7 月)  
2013 年度の協会活動を紹介した英文レポートを作成、協会 HP に掲載、海外交流先にメールにて配信
- 4) IPB 2014 (The 12<sup>th</sup> International Powder & Bulk Solids Processing Conference & Exhibition、10 月 14-16 日、上海)  
辻委員長、浅井委員参加。(無料)ブース設営、協会活動や製造工程図を用いて会員企業を紹介。
- 5) Japanese Pavilion 設営  
上記 IPB 2014 において、共同出展ブースを協会ブースとともに設営。会員企業 11 社、非会員企業 1 社、計 12 社が出展。
- 6) アジアフォーラム 企画・運営 (国際粉体工業展東京 2014 併催行事、11 月 27 日)  
テーマは「多国間貿易時代に生きる我国産業」、参加者は 64 名。  
以下の内容、講師にて開催。
  - 日本企業を取り巻く FTA の最新状況  
(独) 日本貿易振興機構 椎野 幸平 氏
  - 知的財産を巡る現状と課題ーアジアの新興国と日本の共存ー  
東京理科大学 教授 浅見 節子 氏
  - 医薬品等に関連する特許分野の国際交渉の現状と今後の課題  
明治大学法科大学院 教授 高倉 成男 氏
  - 世界経済地図の変容とそのビジネスチャンス  
ビューラー (株) 代表取締役社長 マックス クリンゲル 氏
- 7) 中国粉体技術協会視察団との交流会 (国際粉体工業展東京 2014 にて、11 月 28 日)  
中国・清華大学の蓋先生と中国の企業経営者ら計 6 名と辻委員長、松本副委員長、協会会員企業所属の 7 名が参加し、日本と中国の粉体事情について意見交換を行った。
- 8) Powder & Bulk Solids India 2015 と企業視察ツアー企画、実施 (2 月 16-20 日)  
インド・ムンバイで開催される粉体工業展の視察とインドの粉体関連企業 4 社を見学するツアーを実施。辻委員長ほか 5 名参加。辻委員長は展示会会場にて開催の Workshop で講演も実施。

## 2.実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.7.23	東京/種苗会館 6 階会議室	11	1. 前回議事録、委員長連絡会資料確認 2. 各種規定、覚書の確認 3. International Powder & Bulk Solids 2014 (2014.05.-06-08、米国・ロースモント)参加報告 4. 国際粉体工業展東京 2014 における中国粉体技術協会訪問団との交流会について 5. アジアフォーラム(国際粉体工業展 2014 併催行事)について 6. IPB 2014 における Japanese Pavilion について 7. Powder & Bulk Solids India 2015 ツアー企画 8. APPIE annual REPORT の配布先について 9. 協会ホームページ英語版の改訂について(総務委員会:11 月に全面改訂予定) 10. 海外交流委員会活動内容について
2	H27.3.20	東京/種苗会館 6 階会議室	12	1. 「平成 26 年度第 1 回海外交流委員会」「平成 26 年度海外交流委員会企画小委員会」議事録確認 2. 平成 26 年度活動報告と平成 27 年度事業計画 3. 海外協賛団体について 4. 協会規定、覚書の改訂について 5. 海外情報セミナーについて 6. 協会英文ホームページについて

### (企画小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.12.18	東京/東京事務 5 階会議室	6	1. インドツアー2015 について 2. 海外交流委員会の基本方針の確認 3. 平成 27 年度事業計画 4. 平成 27 年度予算検討 5. 平成 27 年度事業計画書の作成 6. 次回(平成 26 年度第 2 回)委員会日程

## 6.8 人材育成委員会（大川原正明委員長、西村卓朗副委員長）

### 1.平成 26 年度の事業実績概要

◇営業・管理部門の若手のつどい(年 4 回、うち 2 回は技術系向けグループ討議方式)

◇学生ツアー

1)企業の社員(入社間もない者、内定者)..... 従来通り

2)今までのような研究室を通じた学生(粉体関連の学生)..... 従来通り

※就職担当の先生を通じて募集していただく方法として

3)進路・就職先未定の学生に働き掛け(主として大学 3 年生、2 年生)..... 新しい取組み

集合時間を早めて、ツアー出発前に粉体に関する説明会を工学院大学の山田先生が行い大変好評だった。

◇雇用延長に伴う諸制度の勉強会

1)協会を通じて、会員各社にアンケートを取った。

### 2.実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.30	京都/ホテルセントノーム京都	15	1.新任委員の紹介 2.平成 26 年度事業計画の確認 3.「国際粉体工業展東京 2014 学生ツアー・交流会」について 4.次回及び今後の「営業・管理部門の若手のつどい」について 5.本日の第 48 回「営業・管理部門の若手のつどい」役割分担、進行方法について 6.その他:雇用延長に伴う諸制度の勉強会について
2	H26.9.10	大阪/ホソカワミクロン(株)本社	12	1.「国際粉体工業展東京 2014 学生交流会」について ・スケジュール、役割分担、各大学就職担当へのアプローチ等 2.次回及び今後の「若手のつどい」について 3.本日の「若手のつどい」役割分担 4.その他:雇用延長に伴う諸制度の勉強会について他
3	H26.10.29	東京/種苗会館 6 階会議室	18	1.「国際粉体工業展東京 2014 学生ツアー・学生交流会」について ・応募状況、スケジュール、進行方法、役割分担等 2.次回(2015 年 3 月)及び今後の「若手のつどい」について 3.本日の「若手のつどい」役割分担 4.その他:雇用延長に伴う諸制度の勉強会について
4	H27.3.26	東京/ちよだプラットフォームスクエア	12	1. 前回の議事録確認 2.次年度(平成 27 年)計画について 3. 次回(第 52 回)「営業・管理部門の若手のつどい」について 4.国際粉体工業展東京 2014 学生ツアー反省及び大阪粉体工業展 2015 学生ツアー・交流会について 5.雇用延長制度のアンケート結果について (資料説明、結果、コメント、今後の取組み) 6.本日(第 51 回)「若手のつどい」の役割分担、進行方法について

(学生ツアー小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.7.22	東京/東京事務所	7	1.学生ツアー基本方針の確認及び今後の段取り 2.当日のスケジュールの確認 3.その他
2	H27.1.21	東京/東京事務所	5	次回若手のつどいについて他

(若手のつどい)委員会と同日開催

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.30	京都/ホテルセントノーム京都	43	第 48 回営業・管理部門の若手のつどい 講師:心華寺金港弁財天 住職(心華寺研修道場 道場長) 斯波最誠 和尚様 テーマ:『リーダーに求められる器量』
2	H26.9.1	大阪/ホソカワミクロン(株)本社 12 階会議室	44	(通算 49 回)第 3 回技術部門の若手のつどい 6 名の先生のプレゼンテーション、グループ討議、情報交換など
3	H26.10.29	東京/ホテル機山	62	第 50 回営業・管理部門の若手のつどい

		館		講師:アシザワ・ファインテック(株) 営業推進役 長井 明 氏 テーマ:『機械営業のおもしろさ』
4	H27.3.26	東京/ちよだプラ ットフォームスクエ ア	43	(通算 51 回)第 4 回技術部門の若手のつどい 6 名の先生のプレゼンテーション、グループ討議、情報交換 など

## 6.9 標準粉体委員会 (森康維委員長、後藤邦彰副委員長)

### 1.平成 26 年度の事業実績概要

- 1)JIS Z 8901 の改定点を整理、規格委員会に 27 年度に改正したい旨を申し出た。
- 2)吉田前委員長作成の「JIS 粒子径測定装置検定用粒子 (MBP) 不確かさ報告」の内容を確認し、26 年 11 月にリニューアルした協会 HP に掲載。CRM に向けての第一歩を踏み出した。
- 3)サブミクロン領域粒子径分布測定装置試験用粒子 (FSTP) の再分級を完了。ラウンドロビン試験を計装測定分科会の協力を得て実施すべく準備中。平成 27 年度に実施する新 FSTP の不確かさ測定の計画を立てる。

### 2.実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.8.5	京都/京都本部	15	1.委員長連絡会議報告 2.「JIS Z 8901 試験用粉体及び試験用粒子」の改定について 3.JIS 粒子径測定装置検定用粒子 (MBP) 不確かさ報告について 4.サブミクロン領域粒子径分布測定装置試験用粒子 (FSTP) の再評価について 5.その他
2	H27.3.4	京都/京都本部	11	1. 新 FSTP の不確かさ測定項目検討 2. 新 FSTP のラウンドロビン試験実施法検討 3. その他

## 7. 規格・標準化委員会

### 7.1 規格委員会 (遠藤茂寿委員長、松山達副委員長)

#### 1.平成 26 年度の事業実績概要

- 1) 粉体工業技術に必要とされる JIS 原案作成及び ISO の新規発行・改正に伴う JIS 原案作成
  - ・SAP 12-10:2010 最小着火エネルギー測定方法(委員長:東京大・土橋先生)
  - ・SAP 15-13 粉体の一面せん断試験(委員長:兵庫県立大・鈴木先生)
  - ・JIS Z 8823-2:2004 液相沈降-光透過式遠心沈降法の改正(委員長:広島大・吉田先生)
- 2) 平成 27 年度 JIS 原案作成の申請
  - ・ISO 26824 粒子特性評価に関する用語 (TC 24/SC 4) (委員長:遠藤)
  - ・ISO 13099-2 ゼータ電位;光学法 (TC 24/SC 4) (委員長:東谷先生)
- 3) 次の JIS の定期見直し調査に対し、回答を行った。
  - ・Z 8816 サンプルング方法通則(日高先生)→確認
  - ・Z 8819-2 平均粒子径の計算(遠藤委員長)→暫定的確認(改正申請は再来年度以降)
  - ・Z 8822 沈降質量法(吉田先生)→確認
  - ・Z 8823-1 液相遠心沈降法(吉田先生)→確認
  - ・Z 8901 試験用粉体(標準粉体委員会/森先生)→正誤表対応(引用規格の廃止のため)
  - ・Z 8831-2 マクロ細孔分布(鈴木先生)→暫定的確認
  - ・Z 8831-3 ミクロ細孔分布(鈴木先生)→暫定的確認
- 4)協会規格原案作成及び見直しは、本年度、行わなかった。
- 5)規格化、標準化事業の成果の普及・広報
  - ・昨年度制定された JIS Z8828 粒子径解析-動的光散乱法の紹介を粉体技術誌で行った。
  - ・JIS Z 8825 および SAP 16-13 の紹介を依頼した。

#### 2.実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.4	東京/ 種苗会館 6 階 会議室	9	1 規格類 (SAP、JIS、ISO) の確認 2.協会規格作成及び見直し 3.JIS 原案作成及び見直し 4.規格関連委員会の動向

				5.その他
2	H26.12.8	東京/ 種苗会館6階 会議室	9	1 規格類(SAP、JIS、ISO)の確認 2.JIS 原案作成及び見直し 3.規格関連委員会の動向 4.来年度事業計画 5.その他

### 3.協会が関与する規格等

#### 1)協会が関与し新しく発行された ISO 規格 6 件

- ・ISO 9276-2:2014「粒度分析結果の表現方法—第 2 部:粒度分布による平均粒度/粒径及びモーメントの計算」
- ・ISO 12154:2014「行程容積による密度の測定—ガスピクノメトリによるスケルトン密度」
- ・ISO 13099-3:2014「コロイド系—ゼータ電位測定の方法—第 3 部:音響法」
- ・ISO 13317-4:2014「重力液体沈降法による粒径分布の求め方—第 4 部:平衡法」
- ・ISO 13322-1:2014「粒径分析方法—画像分析方法—第 1 部:静止画像分析方法」
- ・ISO 27891:2015「エアロゾル粒子個数濃度—凝縮粒子カウンタの校正」

#### 2)外部団体依頼による規格関連審議の委員会に次の委員を本会から派遣した。

- ・ISO/TC229(ナノテクノロジー):綾信博氏(産総研)
- ・ISO/TC142(空気その他のガスの清浄装置):金岡千嘉男氏(金沢大学名誉教授)、米田佐氏(米田技術士事務所)
- ・IEC/TC31(防爆電気機器):山隈瑞樹(安衛研)
- ・ナノテクノロジービジネス協議会(NBCI):増田弘昭氏(京都大学名誉教授)
- ・ISO/TC281(微細気泡技術):綾信博氏(産総研)、遠藤茂寿氏(TASC)
- ・土木学会 ISO 対応特別委員会:遠藤茂寿氏(TASC)

## 7.2 ISO 対応委員会 (遠藤茂寿委員長、吉田英人副委員長)

### 1.平成 26 年度の事業実績概要

#### 1-1 委員会の構成と概要

本委員会は、粉体工業技術関連の国際標準化作業を推進するとともに、粉体工業技術に関する国際規格化の動向把握と規格化作業の調整を行うことを目的としている。ISO の国内審議団体として、経済産業省からの委託である国際標準化推進事業(原案作成、審議、定期見直し、新規規格提案)を推進している。本年度は次の事業を三菱総研より受託し、国際標準の開発を行った。

- ・ナノ物質等の計測評価に関する国際標準開発(300 万)
- ・集じん器用ろ布の品質評価に関する国際標準開発(200 万)
- ・国際幹事等国際会議派遣事業(ISO/TC24/SC4 会議への派遣)(46.9 万)

これらの業務は、ISO の TC(専門委員会)/SC(分科委員会)に対応した小委員会が担当した。

- ・ISO 対応委員会(遠藤委員長、吉田副委員長)
- ・ISO 対応委員会粒子特性評価小委員会(桜井委員長):ISO/TC 24/SC 4 に対応;52 名
- ・ISO 対応委員会ふるい小委員会(松山委員長):ISO/TC 24/SC 8 に対応;18 名
- ・ISO 対応委員会集じん技術小委員会(金岡委員長):ISO/TC 142/WG 7, WG 5, 及び ISO/TC 146/WG 23 に対応;21 名(WG のみのメンバーを含む)

#### 1-2 委員会活動の実績(詳細は小委員会の報告参照)

##### 1)ISO 対応委員会

- ・ISO/TC 24 会議:開催なし
- ・ISO/TC 24/SC 4 幹事国業務推進のための支援体制づくり

##### 2) 粒子特性評価小委員会

- ・ISO/TC 24/SC 4 第 46 回会議(2014 年 5 月 23~24 日, 中・北京):日本から 17 名参加
- ・ISO/TC 24/SC 4 第 47 回会議(2014 年 9 月 18~19 日, 英・マンチェスター):日本から 15 名参加
- ・新規 IS 発行 3 件;定期見直し投票 3 件;CD2 件;DIS1 件;FDIS5 件;NP 投票 4 件
- ・日本から新たに 1 名のシャドウコンビーナが指名される(計 8 名)
- ・次期(2015-2017, 3 年間)TC 24/SC 4 の国際幹事国を担当(幹事:TASC・遠藤)

##### 3) ふるい小委員会

- ・小委員長の交代:内海氏から創価大学・松山先生に
- ・ISO/TC 24/SC 8 会議(WG 1 & WG 2)(2014 年 3 月 27 日, 独・ベルリン)
- ・ISO 3310-1, ISO 9044 改訂(何れも DIS 投票)

##### 4) 集じん技術小委員会

- ・平成 26 年度 ISO/TC 142 国内委員会(2014 年 5 月 21 日, 早稲田大学;8 月 5 日, 浜町会館)
- ・ISO/TC 142 第 10 回総会および WG 5, WG 7 会議(2014 年 9 月 22-25 日, 英・ロンドン):日本から 3 名参加
- ・DIS 16891 の IS 化;DIS 投票(DIS→IS)で 100%賛成を得たが、コメントの対応から FDIS にする。



・ISO/TC 142/WG 5(集じん装置)の活動再開により、当該 WG も APPIE が国内審議団体として担当する。ISO/PWI 16313 Laboratory test of dust collection systems utilizing porous filter media online cleaned using pulses of compressed gas が part 1 と part 2 に分かれて、規格開発される予定。

1-3 上記 TC 以外における粉体工業技術に関連する国際規格化動向の把握

・ISO/TC229 (nanotechnology), TC281 (Fine bubble technology), その他 TC との情報共有を図るため、リエゾン委員を関係(小)委員会から派遣

2.実施した会合、会議について

(ISO 対応委員会はなし)

(粒子特性評価小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.7.9	東京/種苗会館 6 階会議室	43	1. 第 46 回 ISO/TC 24/SC 4 北京会議報告 2. 第 47 回 ISO/TC 24/SC 4 マンチェスター会議への対応 3. ISO 対応委員会, 他 TC 報告 4. その他(SC 4 国際幹事の交代)
2	H27.1.29	東京/種苗会館 6 階会議室	34	1. 第 47 回 ISO/TC 24/SC 4 マンチェスター会議報告 2. 第 48 回 ISO/TC 24/SC 4 パリ会議への対応 3. ISO 対応委員会, 他 TC 報告 4. 国際幹事業務関係の連絡 5. その他

(ふるい小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.12.2	協会東京事務所 協会京都本部 (TV 会議)	14	1. ドイツ会議報告 2. DIS 3310-1, DIS 9044 について 3. その他(JIS の改訂など)

(集じん技術小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.17	東京・種苗会館 6 階会議室	20	1. H26 年度構成と方針(WG-C 委員長、副委員長の選任) 2. TC 142/WG 7 及び WG 5 の報告と今後の対応方針

・小委員会 WG-B 及び WG-C を個別に開催した(WG-B:3 回, WG-C:6 回)。

## 7.2.1 粒子特性評価小委員会 (桜井博委員長)

### 1.平成 26 年度の事業実績概要

本小委員会は、現在 52 名の委員により構成され、ISO/TC 24/SC 4(粒子特性評価分科委員会)において行われている粉体・粒子測定に関する ISO 規格作成に参加し、適正な規格文書が迅速に作成されるよう活動を行っている。平成 26 年度も、規格文書の作成、新たな規格の提案、承認投票、定期見直し等の作業を行うとともに、2 回の国際会議に代表団を派遣し、文書案の審議を行った。また、年 2 回の頻度で小委員会を開催し、規格作成や国際会議での審議の方針について検討を行った。

#### 1)ISO/TC 24/SC 4 第 46 回国際会議 (平成 26 年 5 月 23~24 日、中国・北京)における規格審議

- ・参加者: 国際幹事(ドイツ)の他、11 カ国から計 66 名。議長は欠席。当小委員会からは 17 名が参加。
- ・13 の WG 会合が開催され、ISO 規格案の審議を行った。6 件の Resolution が採択された。

#### 2)ISO/TC 24/SC 4 第 47 回国際会議(平成 26 年 9 月 18~19 日、イギリス・マンチェスター)における規格審議

- ・参加者: 国際幹事(ドイツ)の他、12 カ国から計 57 名。議長は欠席。当小委員会からは 15 名が参加。
- ・12 の WG 会合が開催され、ISO 規格案の審議を行った。15 件の Resolution が採択された。
- ・日本提案の 27891 規格(CPC 校正法)が FDIS 投票にて承認され、ISO として発行されることが決定した。
- ・日本から WG 10 のシャドウコンビーナが指名された。これにより、日本からのシャドウコンビーナは計 8 名となった。

#### 3)各審議段階での投票、規格発行、定期見直し、新規提案の件数(平成 26 年 1 月~12 月)

- ・新規提案(NP)2 件、委員会段階(CD)2 件、照会段階(DIS)1 件、承認段階(FDIS)5 件、定期見直し(SR)3 件に対して投票を行った。
- ・3 つの ISO 規格が発行された。
- ・日本から 1 件の新規プロジェクト提案(ISO 21501-4 改定)を行った。

### 2.実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.7.9	東京/種苗会館 6F 大会議室	40	1. 第 46 回北京会議報告 2. 第 47 回マンチェスター会議への対応

				3. ISO 対応委員会, 他 TC 報告 ・ISO/TC 24 ・ISO/TC 24/SC 8 ・ISO/TC 142 ・ISO/TC 229 ・ISO/TC 281 4. その他 (SC4 国際幹事の交代)
2	H27.1.29	東京/種苗会館 6F 大会議室	34	1. 第 47 回マンチェスター会議報告 2. 第 48 回パリ会議への対応 3. ISO 対応委員会, 他 TC 報告 ・ISO/TC 24 ・ISO/TC 24/SC 8 ・ISO/TC 142 ・ISO/TC 229 ・ISO/TC 281 4. 国際幹事業務関係の連絡 5. その他

### 7.2.2 ふるい小委員会 (松山達委員長)

#### 1. 平成 26 年度の事業実績概要

- ・ISO/TC24/SC8, WG1&2 ドイツ会議出席 (松山小委員長) : ISO3310-1, DIS9044 の改訂案について討議した。
- ・上記に基づき, 国内委員会では DIS3310-1, DIS9044 投票案の内容の検討を行い 12 月 16 日投票を行った。

#### 2. 実施した会合、会議について

(小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.12.2	東京事務所 / 京都本部 TV 会議	11	・ISO/TC24/SC8, WG1&2 ドイツ会議報告 ・DIS3310-1, DIS9044 投票案検討

### 7.2.3 集じん技術小委員会 (金岡千嘉男委員長)

#### 1. 平成 26 年度の事業実績概要

1) TC142/WG7 : ISO16891 Test methods for evaluating degradation properties of cleanable filter media は、H26.5.15-10.15 の DIS 投票において、100%の賛成で承認された。投票期間中に開かれた TC142 総会に合わせて開いた WG7 会議では、投票結果の状況を見て FDIS 投票なしの IS 化について了承。しかし、その後国際幹事より、投票コメントに対する回答と FDIS 原案の提出を求められた。

2) これに関連して、連続通気式曝露法による追加実験を実施した。

3) TC142/WG5 では、H26.1 に Chris Fischer (米) が新コンベンナーとなり、論議が加速されたが、提出された原案は、ASHRAE (米国冷凍熱空調協会) 規格案 S199 をベースにするものであり、産業用集じんに用いられるバグフィルタに必ずしも適した試験方法ではないので、日本から種々の提案をし、内容の変更やランドロビンテストの提案等を行っている。その結果、規格は 2 パートに分けて作成することとなり、現在提案中の案はファン非搭載システムに対する規格として検討し、Part2 はファン搭載システムに対して作成することとなった。なお、Part2 のプロジェクトリーダーは未定である。

#### 2. 実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.17	東京/種苗会館	20	WG-C 委員長、副委員長の選任 TC142/WG5,7 について

(小委員会)

#### WG-B

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.17	東京/種苗会館	20	ISO/TC142/WG7 の活動経緯並びに今後の推移について
2	H26.10.17	東京/種苗会館	15	TC142/WG5 ロンドン会議の報告と今後の取組み (DIS16891 投票について)
3	H26.12.10	静岡/アクトシティ浜松コンgresセンター	10	耐久試験結果のコメントまとめと今後の進め方

#### WG-C

回	日程	場所	人数	議題
臨	H26.5.13	静岡/アマノ(株)細江事業所	4	1. ISO/TC142/WG5 バグフィルタ評価法に関する検証実験結果について 2. 同上検証実験、調査内容など、今後の進め方について 3. 同上次回 WEB 会議について
1	H26.6.17	東京/ 種苗会館	18	1. WG-C 委員長に後夷委員と副委員長に勝島委員を選任 2. ミラノ会議の報告
2	H26.7.1	静岡/アマノ(株)細江事業所	10	1. 事前会議 バグフィルタ評価法の日本としての評価内容の意思統一を確認。 2. WEB 会議に参加
3	H26.8.27	静岡/アマノ株式会社細江事業所	9	1. ISO16131 concept に盛り込むべき事項の検討と日本案の作成 2. N31 の検討 3. アマノ実験方法及び実験結果の検討
4	H26.10.17	東京/ 種苗会館	14	TC142/WG5 ロンドン会議報告と今後の取り組み
5	H26.12.5	京都/京都本部	11	ISO/TC142/WG5 N40 に対するコメントおよび Part2 への考え方

#### 国際会議

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.3.17	ミラノ/CTI	10	ISO/TC142/WG5 PWI16313 論議
2	H26.7.15	浜松/アマノ細江事業所	15	TC142/WG5 web meeting PWI16313 論議
3	H26.9.22-25	ロンドン/YC142 総会及び WG5,7meeting	49	DIS16891 投票終了後の IS 化について PWI16313 論議

### 7.3 粉じん爆発委員会（土橋律委員長、山隈瑞樹、林浩司各副委員長）

#### 1. 平成 26 年度の事業実績概要

##### 1) 安全教育

粉じん爆発・火災安全研修(初級および中級)の企画・運営

##### ・粉じん爆発・火災安全研修【初級/基礎編】(毎年秋、関東関西交互に開催)の開催

平成 26 年 9 月 18-19 日(木、金)の 2 日間、同志社大学京田辺キャンパスで開催。参加者 61 名。今回の研修から第 1 日目の講義終了後、講師、粉じん爆発委員会委員および受講者間の意見交換等の場として、1 時間程の交流会を実施した。

##### ・粉じん爆発・火災安全研修【中級/技術編】(2年ごとの春に関東で開催)の開催

平成 27 年 3 月 12-13 日(木、金)の 2 日間で、(独)労働安全衛生総合研究所にて開催。参加者 43 名。今回も 1 時間程の交流会を実施し、講師、粉じん爆発委員会委員および受講者間の意見交換を行った。

##### 2) 規格の作成

##### ・協会規格 SAP 12-10「可燃性粉じん・空気混合気の最小着火エネルギー測定方法」JIS 化

JIS 原案作成臨時委員会(活動期間 H26/4~H27/3)が設置され、原案作成を実施。校正方法についてラウンドロビンテストを実施し、検討を行った。平成 27 年 2 月末に日本規格協会へ原案を提出した。

##### ・耐爆発衝撃形流動層乾燥機技術指針の作成

これまで、耐爆発衝撃形流動層乾燥機については、ドイツ VDI 指針および欧州規格 EN 1127-1 準拠の輸入設置申請に関して本委員会ですサポートし、個別に所轄官庁(厚生労働省)に申請し、輸入・設置使用許可を得てきた。今年度、国内で製造する場合の技術的基準とするため、技術指針作成作業を安衛研で行い、指針原案を得た。本委員会委員も多数原案作成作業及び審議のための委員会に参加した。

##### 3) 行事等への対応

##### ・国際粉体工業展東京 2014 における「粉じん爆発情報セミナー」の企画・開催

11 月 28 日(金)13:30~16:30 有料開催:会員 3,000/一般 5,000 参加者 120 名  
粉じん爆発に関する先端情報の発信・周知を目的として以下のように開催。

<主催者挨拶・トピックス紹介> 東京大学教授 土橋 律 氏

【学術情報】「粉じん爆発安全関係の最近の研究動向」東京大学教授 土橋律 氏

【規制・技術情報】「工場電気設備防爆指針(国際規格に整合した技術指針 2014)」

(公社)産業安全技術協会 試験部長 吉原俊輔 氏

【爆発災害情報】「粉体による事故事例とリレーショナル化学災害データベース(RISCAD)の活用」

(独)産業技術総合研究所 客員研究員 若倉正英 氏

4)最新の規制、規格等動向把握

・IEC/TC31 国内委員会への対応

本委員会より山隈副委員長が参加している。

6/4 に委員会が開催された。IEC/TC31 電気機器防爆関係規格の国内導入として粉じん防爆構造関係の指針が近日中に策定されることが報告された。

・粉じん防爆構造規格の IEC 規格への整合化

工場電気設備防爆指針(国際規格に整合した技術指針)2008」が改正され、工場電気設備防爆指針(国際整合技術指針)(JNIOOSH-TR-46)となる。

現状では粉じん爆発発生危険がある場所では、構造規格(厚生労働省告示)の検定に合格した機器を使う必要があるが、IEC 規格適合品も新指針に基づき国内で検定を受けた上で使用が可能となる。危険場所の区分がより明確に示され、そこで用いることができる防爆構造が指定される。

今後、可燃性粉体を取り扱う製造設備においては、防爆機器の設置にあたって大幅な見直しを要する可能性があるため、日清エンジニアリングの彦坂氏に問題点等をまとめていただき、協会として対応を検討した。改定後の見通しとしては、既存設備の変更は求められないが、新設設備については、新指針適合品が入手可能な場合は導入することが求められる。

5)分科会等との連携

・粉砕分科会主催、粉じん爆発委員会共催で、『粉じん爆発対策強化に関する講演』を8月29日(金)13:20~17:00に実施。場所は、日本フェンオール(株)八王子事業所(見学も実施)。参加者31名(うち4名当委員会委員)。

・集じん分科会との合同勉強会を、11月5日(水)13:30~17:00に実施。場所は(独)労働安全衛生総合研究(清瀬、見学も実施)。参加者32名(うち17名当委員会関係)。

2.実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.20	東京/ 種苗会館6階 会議室	20	1. 新委員紹介 2. 前回「H25 年度第3回粉じん爆発委員会議事録」(案)確認 3. 粉じん爆発火災安全研修【初級】(基礎編)について 4. 粉じん爆発火災安全研修【中級】(技術編)プログラム、開催案内確認 5. 粉じん爆発情報セミナー 6. JIS 原案作成委員会状況報告 7. 耐爆発圧力(衝撃)構造乾燥設備技術指針作成状況報告 8. 分科会合同勉強会について 9. IEC/TC31 国内委員会状況報告 10. 「工場電気設備防爆指針(国際化に整合した技術指針)」の改正について報告 11. 平成26年度第1回委員長連絡会資料確認
2	H26.12.15	東京/ 種苗会館6階 会議室	20	1. 前回議事録確認 2. 平成26年度 粉じん爆発火災安全研修【初級】(基礎編)実施報告、アンケート結果報告 3. 平成26年度 粉じん爆発火災安全研修【中級】(技術編)について確認 4. 平成28年度以降の粉じん爆発火災安全研修プログラム・講師・テキスト改訂について 5. 国際粉体工業展東京 2014「粉じん爆発情報セミナー」実施報告 6. 粉体工業展大阪 2015「粉じん爆発情報セミナー」について 7. JIS 原案作成(可燃性粉じん・空気混合気の最小着火エネルギー測定方法)状況報告等 8. 耐爆発圧力衝撃形乾燥設備技術指針作成 状況報告 9. 分科会(粉砕分科会 8/29、集じん分科会 11/5)との合同勉強会実施報告 10. IEC/TC31 国内委員会 状況報告 11. 「工場電気設備防爆指針(国際化に整合した技術指針)」の改正について報告 12. 平成27年度事業計画書(案)、予算について 13. その他

3	H27.3.2	東京/ 種苗会館 6 階 会議室	19	1. 前回議事録確認 2. 「平成 27 年度事業計画書」確認 3. 粉じん爆発火災安全研修【初級】(基礎編)H26.9.18-19 開催 アンケートでの質問および回答 4. 粉じん爆発火災安全研修【中級】(技術編)H27.3.12-13 開催、交流会時間・会場変更、アンケートについて 5. 平成 27 年度以降の粉じん爆発火災安全研修プログラム・講師について 6. 粉体工業展大阪 2015「粉じん爆発情報セミナー」について、前回セミナーのアンケート結果 7. JIS 原案(粉じん・空気混合物の最小着火エネルギー測定方法) 報告 8. 耐爆発圧力(衝撃)構造乾燥設備技術指針作成 報告 9. IEC/TC31 国内委員会 状況報告 10. 「工場電気設備防爆指針(国際化に整合した技術指針)」改正 報告 11. JIS 見直しについて(JIS Z 8817, JIS Z 8818)
---	---------	---------------------	----	--

## 8. 臨時委員会

### 8.1 JIS 原案作成委員会(1) -粉じん最小着火エネルギー測定方法- (土橋律委員長、山隈瑞樹副委員長)

#### 1. 平成 26 年度の事業実績概要

この度の JIS 原案は、国際規格 IEC 60241-2-3 を整合する規格とするが、協会規格(SAP 12-10-2010)及び国内試験機関の独自方式も一部取り込むことにより、国際整合性を保ちつつ、国内でも無理なく実施可能な規格とするため、主として次の点について検討を行った。

- 1) 国際規格では、静電容量に蓄えた静電エネルギーをそのまま又はインダクタンスを介して放電火花を発生させているが、これに加えて、抵抗を含む回路でも実施できるものとした。ただし、放電回路の定数によって測定値が異なるので、この試験報告書に放電回路を記載することとした。
- 2) 国際規格で指定されている校正用粉体は国内では入手が難しいことから、新たにアクリル樹脂、石松子及び石松子・JIS 7 種混合粉(30:70)の3種類を指定した。これらの粉体は、ラウンドロビンテストにより所定の値が再現できることを確認した。
- 3) 試験回路として、「trickle-charging circuit」に代えて、国内で一般的に使用されている高電圧リレーによるトリガ回路を入れた。
- 4) その他に、電極間隔、試験環境、着火判定法等を研究成果、他の規格との整合性等を考慮して変更した。

最終の委員会では内容について確認後、平成 27 年 2 月中に原案作成を完了し、日本規格協会へ原案を提出した。

#### 2. 実施した会合、会議について

(本委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.3	東京/ 種苗会館 6 階会議室	20	1. 火花発生回路、2. 測定手順、3. 試験サンプルの粒子径、4. 校正用粉体、5. 安全上の留意点、6. その他
2	H26.8.11	東京/ 種苗会館 6 階会議室	13	1. 議事録確認 2. ラウンドロビンテスト報告と今後の進め方 3. 原案審議 4. その他
3	H26.10.27	東京/ 種苗会館 6 階会議室	13	1. 議事録確認 2. 原案審議
4	H27.1.20	東京/ 種苗会館 6 階会議室	13	1. 議事録確認 2. 原案審議(最終確認)

(分科会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.3	東京/ 種苗会館 6 階会議室	6	校正用粉体の選定とラウンドロビンテストの実施方法
2	H26.6.20	東京/ 種苗会館 6 階会議室	6	校正用粉体の選定とラウンドロビンテストの実施方法
3	H26.12.15	東京/ 種苗会館	5	ラウンドロビンテスト試験結果について

		6階会議室	
--	--	-------	--

3.特記事項(特に「連絡会議」で報告・説明したい事柄)

- ・国際規格 IEC 60241-2-3 に整合 (MOD:一部修正)した規格となる。
- ・以下の既存の2規格と合わせて粉じん爆発危険性の基本評価手法が確立される。  
可燃性粉じんの爆発圧力及び圧力上昇速度の測定方法 (JIS Z 8817)  
可燃性粉じんの爆発下限濃度測定方法 (JIS Z 8818)

## 8.2 JIS 原案作成委員会(2) --一面せん断による CSL の測定方法-- (鈴木道隆委員長)

### 1.平成 26 年度の事業実績概要

日本粉体工業技術協会の規格 SAP15-13 に基づき、一面せん断試験による限界状態線 (CSL) 及び壁面崩壊線 (WYL) の測定方法に関する JIS 規格案を検討した。6 月の委員会で JIS 化へのスケジュールと方針を確認した。その後、執筆チームが JIS 案を作成し、10 月の分科会で説明し、分科会での意見伺うとともに修正すべき点を議論した。12 月の分科会で第 1 回分科会で出された意見や修正すべき点を盛り込んだ修正案作成し、第 2 回委員会で委員からの意見を聞いた。これらの結果に基づき、再修正案を作成し、最終の委員会で内容について確認後、平成 27 年 2 月中に原案作成を完了し、日本規格協会へ提出した。

### 2.実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.2	東京/ 種苗会館 6階会議室	18	1. 方針とスケジュールの概説現・協会規格の積み残しの扱い議論、今年の流れ 2. 方針問題:「2013 制定協会規格の積み残し課題 (PYL 問題など) の扱い」 2013 実施のアンケート集計結果の報告、結果を受けて PYL 測定法は JIS 原案から除くかを議論 3. スケジュール確認:執筆チーム(分科会)・査読チーム分け、分科会役割分担(担当者決定)、参加要請、メールによる進捗管理
2	H26.12.3	東京/ 種苗会館 6階会議室	16	修正案を委員会に提出し、意見を伺い、修正すべき点を明らかにした。この結果に基づき 1 月までに再修正案を作成する
3	H27.1.27	東京/ 種苗会館 6階会議室	15	再修正案確認、意見統一

(分科会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.10.3	京都/京都本部	7	執筆チームが作成した案を分科会で議論
2	H26.12.3	東京/ 種苗会館 5階会議室	6	第 1 階分科会での意見に基づいて修正案を作成

## 8.3 JIS 原案作成委員会(3) --光透過式遠心沈降法-- (吉田英人委員長)

### 1.平成 26 年度の事業実績概要

液相遠心沈降法による粉体の粒子径測定に関する ISO (13318-2)の内容が一部改正された。よって国内の関連する (JIS Z8823-2)について部分的な修正を実施した。また追加の改正点として装置を校正するための検定用粒子についても既に協会が扱っているため、この内容も追加記載することにした。

1 月の最終委員会で審議内容を反映した改正原案を回付、意見集約し、平成 27 年 2 月中に改正原案作成を完了し、日本規格協会へ提出した。

### 2.実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.7.16	東京/ 種苗会館 6階会議室	12	1.委員長挨拶 2.委員自己紹介 3.JIS 原案改定の趣旨説明 4. 光透過式遠心沈降法の利用を巡る現状について 5.JIS 改正の方針・内容の審議
2	H27.1.14	東京/ 種苗会館 6階会議室	12	1.前回の会議以降で修正した部分に関して再度検討をした。

## 9. 分科会

### 9.1 粉体ハンドリング分科会

**会員数:211人**

(松本幹治コーディネータ、松坂修二副コーディネータ、村上徹代表幹事[アイシン産業㈱])

海老原裕之副代表幹事[日清エンジニアリング㈱])

#### 1. 平成 26 年度の事業実績概要

平成 26 年度の成果について

- 1) 各種会合・講座は計画通りに遂行中。
- 2) 新規参加会員拡大については現状前年度比 5 名増員。
- 3) 「粉粒体のバルクハンドリング技術」編集、小委員会にて遂行中。
- 4) 粉体の機械的単位操作に関する参加型講演会にて松本幹治コーディネータが「粉体の付着性・流動性に関する力学物性の基礎とその応用」の演題にて招待講演を行なった。
- 5) 年初の事業計画にあった東南アジア地区分科会開催を次年度に延期。

#### 2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について

(分科会)(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.20	長崎/長崎ブリックホール・三菱重工(株)長崎研究所	19 (36)	【輸送分科会と合同開催】 テーマ『研究設備見学と技術講演』 1. 講演:「揺動する循環流動層における粒子濃度分布および粒子壁伝熱特性」 千葉大学大学院 趙桐 (Zhao Tong) 氏 2. 長崎研究所概要説明 三菱重工(株)長崎研究所深川雅幸氏 3. 研究設備見学
2	H26.9.16	三重/AGF 鈴鹿(株)	32	【単独開催】テーマ『工場見学と食品関連製品紹介』 1. AGF 鈴鹿工場概要説明と工場見学 2. 製品紹介 1:自動計量機「TSU-1」、「TSR-5」 「TSU-S4」 タケモトデンキ(株) 辻井文彦氏 製品紹介 2:小型吸引式空気輸送装置「Aspec」 東洋ハイテック(株) 高日恵氏 3. 懇親会(ホテルグリーンパーク鈴鹿)
3	H26.11.14	東京/日清製粉グループ本社	33	【単独開催】テーマ『ナノ粒子のハンドリング』 1. 講演 1「ミクロン・ナノ粒子のハンドリング技術」 京都大学大学院 松坂修二氏 2. 講演 2「微粒子合成とそのハンドリング」 (株)栗本鐵工所 福井武久氏 3. 製品紹介:粉体層せん断力測定装置 NS-S500 型 (株)ナノシーズ 島田泰拓氏 4. 懇親会
4	H27.3.11	東京/八重洲ホール	64	【単独開催】-テーマ『架橋の発生原因と対策技術』 1. 講演「架橋を生じる粉体特性と供給シミュレーション」 山形大学大学院 木俣光正氏 2. 製品紹介:製品紹介「架橋対策機器」 メーカーフラッシュプレゼンテーション(各社 15 分×7社) 3. 懇親会

(幹事会/粉粒体ハンドリング技術編集小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.20	長崎	幹事会①7②6 編集委 15	第1回分科会の段取り、次回企画、事業計画進捗、幹事交代について
2	H26.8.18	名古屋	編集委 11	日刊工業新聞社との出版打合せ
3	H26.9.16	名古屋	幹事会 10 編集委 11	第2回の反省、次回企画、事業計画進捗/編集作業遂行
4	H26.11.14	東京	幹事会 13 編集委 8	第3回の反省、次回企画、事業計画進捗/編集作業遂行
5	H27.1~2	東京	編集委 10	編集作業遂行

6	H27.3.11	東京	幹事会 12 編集委 13	第4回の反省、次回企画、事業計画進捗／編集作業遂行
---	----------	----	------------------	---------------------------

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
4	H26.9.11 ～12	埼玉/日清製粉グループ本社 上福岡研修所	10	粉体ハンドリングⅠ(輸送・供給)
5	H26.10.16 ～17	静岡/ニューウェルサンピア沼 津&赤武エンジニアリング(株)	10	粉体ハンドリングⅡ(プラント・貯槽)

## 9.2 粉砕分科会

**会員数 114人**

(齋藤文良コーディネータ、大木達也副コーディネータ、三代秀久代表幹事〔(株)アーステクニカ〕、  
伊藤均副代表幹事〔(株)セイシン企業、海老原尚副代表幹事〔東京アトマイザー(株)〕)

### 1. 平成26年度の事業実績概要

平成26年度の成果について

1) 中長期事業計画に則した本会合ならびに幹事会・小委員会の開催を計画通りに開催することができました。第1回本会合では“素材”をキーワードとして、製陶技術に関する最新技術と伝統技術の双方を見学、研修しました。第2回本会合では“安全”をキーワードとして、粉じん爆発対策強化について爆発および抑制実験と講演により、対策の重要性について学んだ。

2) 粉体エンジニア早期養成講座「粉砕」を杉山重工殿にご協力頂き開催した。

3) 幹事は2名の増員があり計12名となりました。また本年度一杯で代表幹事、副代表幹事を交代する。

### 2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、粉体エンジニア早期養成講座について

(分科会)(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.19～ 20	北九州/TOTO(株) 大分/小鹿田焼窯	28	最新の製陶技術紹介と伝統窯元訪問[見学・講演会] 粉体技術講演:『粉体密充填のための粒子径分布、粒子形状調整』 兵庫県立大学 鈴木道隆氏
2	H26.8.29	東京/日本フェンオール(株)	31	粉砕操作と粉じん爆発対策強化[見学・講演会] ・基調講演:『粉じん爆発危険性評価と対策』 東北大学名誉教授 榎本兵治氏 ・講演:『大学などの研究室におけるヒヤリ・ハット及び事故事例に学ぶ安全対策』 東北大学名誉教授 齋藤文良氏

(幹事会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.19	福岡	10	第2回分科会開催企画協議
2	H26.9.8	東京	4	人事協議、次年度の活動計画
3	H26.11.4	東京	11	H27年度事業計画
4	H26.12.9	東京	12	H27年度事業計画
5	H27.3.25	東京	13	H27年度事業計画実施協議

(小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.12.25	東京	8	Achema2015 視察(ドイツ)の催行委託先の選考
2	H27.2.26	東京	9	日韓粉体技術シンポジウム(ソウル)企画

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
6	H26.10.23 ～24	愛知/杉山重工(株)	13	「粉砕の基礎と応用」「粉砕装置の特徴、粉砕プロセスの理解」「媒体ミルの DEM シミュレーション」「衝撃剪断方式による繊維状原料の粉砕実験」「粉砕におけるトラブル対策」「粉砕に伴う固体の活性化～メカノケミストリー」「衝突反発方式による鉱物原料の粉砕実験」「講義と実験の整理と発表」

## 9.3 分級ふるい分け分科会

**会員数 116人**

(吉田英人コーディネータ、桜井博副コーディネータ、秋山聡代表幹事〔日清エンジニアリング(株)〕、  
谷川英昭副代表幹事〔関西金網(株)〕)

### 1. 平成26年度の事業実績概要



平成 26 年度の成果について

- 1)食品粉体に対する分級ふるい分け技術の動向とニーズについて調査した。
- 2)樹脂製メッシュクロスおよび成形フィルター製造工場を視察し品質管理の現状を調査した。
- 3)計測分野で応用されているナノ分級技術の動向を調査した。
- 4)ふるい網関係の ISO/SC8 の動向を把握した。
- 5)性能評価法の標準化について幹事会で意見交換を実施したが、大きな進展はなし。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について  
(分科会) (人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.5.29	群馬/㈱日清製粉グループ本社 製粉ミュージアム	20(45)	【食品粉体技術分科会と合同開催】 製粉ミュージアムの説明と見学・講演会 ・「米の粉碎と米粉の性質」 食品総合研究所 五月女格氏 ・「最近のふるい機の動向」 ケイエスリンクス(株) 河原田豊氏
2	H26.9.25	山梨/㈱NBC メッシュテック	24	メッシュクロスと成形フィルタ工場の見学・講演会 ・「ナノ粒子固定メッシュクロスの応用」 ㈱NBCメッシュテック 本島信一氏 ・「ナノ粒子計測における分級技術の動向」 日本カノマック㈱ 福嶋信彦氏

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.5.29	群馬/舟木亭	8	第2回分科会、標準化技術の調査、ナノ分級、粉体エンジニア早期養成講座について
2	H26.9.25	山梨/森屋鮎	6	来年度事業計画

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
9	H26.10.2 ～3	埼玉/日清エンジニアリング(株) 粉体事業部	9	分級・ふるい分けの基礎理論、原理、研究結果、各種実用装置の説明および実習

#### 9.4 乾燥分科会

**会員数 95 人**

(田門肇コーディネータ、立元雄治副コーディネータ、諏訪 聡代表幹事[月島機械(株)])

1. 平成 26 年度の事業実績概要

平成 26 年度の成果について

- 1)第1回乾燥分科会  
J-Power 礪子火力発電所の見学会と講演会を行った。
- 2)第2回乾燥分科会  
IDS 2014(第 19 回国際乾燥シンポジウム) 報告と製品紹介講演を行った。
- 3)粉体エンジニア早期養成講座「乾燥」を(株)大川原製作所で開催した。  
乾燥基礎とスケールアップ手法を、講義と流動層乾燥機、真空乾燥機を用いた実習で学んだ
- 4)粉体技術誌 10 月号「乾燥技術特集」  
乾燥技術の変遷と最新装置に関して大学、企業関係者に執筆頂いた。
- 5)産学官公交流ポスターセッション「実用乾燥技術」  
化学工学会との共催で「実用乾燥技術」に関するポスターセッションと交流会を行った。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について  
(分科会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.17	横浜/J-POWER 電源開発(株)礪子火力発電所 他	28	礪子火力発電所見学・講演会 ・「溶剤を用いた低品位炭の脱水・改質法の開発」 京都大学大学院 蘆田隆一氏 ・「乾燥機の紹介と最近の動向」中央化工機(株)小西康夫氏

2	H26.11.14	東京/機山館	26	IDS 2014(第 19 回国際乾燥シンポジウム)報告と製品紹介講演 ・「IDS2014 参加報告と最近の乾燥研究動向」 京都大学 中川究也氏 ・「IDS に見る乾燥研究動向 噴霧乾燥を中心に」 香川大学 吉井英文氏 ・「過熱水蒸気直接乾燥システムの紹介」 (株)栗本鉄工所 松井悠樹氏 ・「旋回気流乾燥装置トルネッシュドライヤー」 (株)奈良機械製作所 織田直希氏
---	-----------	--------	----	--

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.17	横浜(リヒト)	6	次回分科会の計画、粉体エンジニアについて 人事、次年度計画
2	H26.11.14	機山館	7	H26 年度行事計画および打合せ

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
8	H26.11.20 ~21	(株)大川原製作所	9	乾燥技術の基礎、実習

## 9.5 集じん分科会

**会員数 123 人**

(金岡千嘉男コーディネータ、牧野尚夫副コーディネータ、後夷光一代表幹事〔新東工業(株)〕)

林浩司副代表幹事〔株環境衛生研究所〕)

### 1. 平成 26 年度の事業実績概要

平成 26 年度の成果について

平成 26 年度の分科会活動は、幹事がより一層積極的かつ効率的に意見を出し合えるよう、①フィルターグループ、②集じんグループ、③バグフィルターハンドブック準備グループ④教育グループの4つの小グループ活動を展開。①は、ISO/TC142 におけるろ布耐久性試験法の国際規格(ISO 16891,TC142/WG7)の ISO 化とバグフィルター試験法(ISO16313, WG5)の論議を主導。また、②は5月に第1回分科会として集じんの多機能化を目的に電源開発・礫子火力発電所見学会を実施し、9月に第2回分科会として、気流中粒子計測に関する JIS の新規格紹介とともに東京二十三区中央清掃工場の見学・講演会を実施。2月に第4回分科会として村上製作所にて集じん機用送風機と電動機の省エネをテーマに開催予定。③は既刊のバグフィルターハンドブックの精査を開始し、修正部抽出および現状ニーズへの適合性などを確認中。合わせて昨年度まで進めて来たユーザー視点の要望をまとめ、バグフィルターハンドブックへの展開を図る。④は専門講座および粉体エンジニア早期養成講座を分科会関係者に加え外部講師の協力を得て行い、専門講座については、平成 25 年度関東開催に引続き、関西にて 10 月に開催、粉体エンジニア早期養成講座については平成 25 年度同様 12 月に開催。また第3回分科会として、11月に粉じん爆発小委員会と合同にて粉じん爆発における勉強会を開催。

### 2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について

(分科会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.5.20	横浜 電源開発(株)礫子火力発電所	50	国内初の使用となるターボイラや、電気集じん機、乾式脱硫装置、中央操作室を見学。講演は環境対策技術に関して「集じん装置の多機能化検討」を実施。微粉炭火力発電所における脱硫・脱硝・集じんの各排ガス処理技術の概要と最新技術とその問題点が確認できた。
2	H26.9.17	東京 東京二十三区清掃一部事務組合 中央清掃工場	42	ゴミ受入れバンカーから焼却炉、排ガス処理設備、ボイラ、中央操作室を見学。講演は JIS Z 8852 の内容を田森先生より、同 JIS 用測定機器を機器メーカーより紹介。排ガス処理や集じん装置排気濃度監視のあり方を認識し、新たな業界発展の一因として理解できた。
3	H26.11.5	清瀬 労働安全衛生総合研究所	32	粉じん爆発の原因と考えられる静電気の発生メカニズムの講演とデモンストレーション、粉じん爆発対策設備の紹介を聴講。小型集じん装置内の電荷蓄積測定、フレコンへの粉体投入時電荷蓄積測定、粉体の最小爆発エネルギー測定装置、粉体投入に伴うサイロの静電放電現象装置を見学。

4	H27.2.4	大阪/榊村上製作所	32	ユーザー視点の集じん機への期待 (送風機における省エネ提案)
---	---------	-----------	----	-----------------------------------

(幹事会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.5.20	横浜/くいもの屋わん	14	第2、3回分科会および専門講座の進行内容討議と小グループ活動の活動状況の報告。
2	H26.9.17	東京/海賓亭 八重洲店	14	第3回分科会および専門講座、粉体エンジニア早期養成講座の企画内容討議と新幹事採用に関する討議。
3	H27.2.4	高槻/つきの井	16	第4回分科会役割、平成27年度活動方針、小グループ活動の活動報告。

(小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H27.2.3	京都/協会 会議室	7	集じん分科会内集じん小委員会の活動として「バグフィルター試験法(TC142/WG-5)」について討議。
2	H27.2.13	名古屋/麻益 会議室	6	集じん分科会内フィルター小委員会の活動として「バグフィルターにおけるフェルトの集じん性能」について討議。

(専門講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
59	H26.10.21	京都府内 ムルパルク京都	62	1.集じんの基礎 2.各種集じん技術の原理と構造 3.バグフィルタの詳細と最新動向 4.電気集じん装置の詳細と最新動向 5.微粒子分離技術の最前線

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
10	H26.12.10 ～11	浜松市 1日目:コングレスセンター会議室 2日目:株環境衛生研究所	13	1.集じんの基礎,2.集じん装置の概要と性能,3・4.ろ過集じん・電気集じん装置の特性と設計法,5.局所排気装置の設計法,6.集じん装置の性能測定及びフード制御風速測定,7.前2項の実習

## 9.6 混合・成形分科会

**会員数 87人**

(遠藤茂寿コーディネータ、鈴木道隆副コーディネータ、藤井 淳代表幹事[榊栗本鐵工所]、

菅原一博副代表幹事[菅原精機株])

### 1. 平成26年度の事業実績概要

平成26年度の成果について

- ・分科会:2回開催(日機装、大東亜窯業)詳細下記
- ・小委員会(混練性能評価):2回開催(マルチパスレオメーター実験機作成状況および参考試験)
- ・粉体エンジニア早期養成講座開催
- ・専門講座開催準備

### 2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について

(分科会) (人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.7.17	東京/ 日機装株	29	工場見学会・講演会 工場見学会:温水ラミネーターなど電子部品製造装置モデルルームおよびマイクロトラックなどの粒子評価装置を見学 講演1:『外場印加コロイド成形による高次構造制御セラミックスの作成』 (独)物質・材料研究機構 目 義雄氏 講演2:『積層セラミック電子部品の成型技術』 機装(株)森 透 氏
2	H27.2.2	岐阜/ 大東亜窯業株	22 (35)	【計装測定分科会との合同開催】 工場見学会・講演会 工場見学会:美濃焼磁器の製造ライン見学 講演1:『混練プロセス評価に向けての試行実験』 佐藤粉体テクノラボ 佐藤宗武氏 講演2:『セラミックスの湿式成形とその必要な評価法』 名古屋工業大学 藤 正督氏

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.7.17	イルソーレ	10	分科会行事など

2	H26.9.12	菅原精機株	11	分科会行事予定など、小委員会
3	H27.3.27	菅原精機株	11	分科会行事予定など、小委員会

(専門講座)

平成27年度、『混合特性評価法とその応用』をテーマに規格化された評価法の応用と混練性評価方法を含め専門講座を開催すべく、26年度は準備を行った。

平成27年度開催に向けて小委員会にて検討中。混合特性評価としては協会規格を紹介。さらに混練特性評価においては、基準となる評価装置を準備し、関係企業の協力によりデータを採取。基準とした装置の評価を基に異なった装置間の混練状態を評価する予定。

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
3	H26.8.28 ～29	大阪/株式会社ダルトン	18	28日(第一日目)AM/混合の基礎および装置各論 PM/容器回転型および容器固定型混合機実習 29日(第二日目)AM/混練の基礎および装置各 PM/回分式および連続式混練機実習

## 9.7 造粒分科会

会員数 186人

(村瀬和典コーディネータ、武井孝副コーディネータ、吉原伊知郎代表幹事[㈱奈良機械製作所])

### 1. 平成26年度の事業実績概要

平成26年度の成果について

1) 年間テーマを「災害防止に関わる造粒技術;自己修復機能」として、自己修復コンクリート、人体の自己修復機能、雪崩と粒子の関係、自己止水材料、等に関して講演を企画・実行した。技術討論会は例年3月第2週に行っている。亀裂自己修復カプセル、火薬の安全な扱い、人工血小板の機能に学ぶ自己修復現象等、「災害防止と自己修復機能を有する粒子」に関しての講演を特集した。石炭のクリーンな発電・エネルギー分野の使い方、土石流、エアバッグ用初期起動火薬など時流にあった話題を技術的に掘り下げることが出来た。又、最新の造粒技術の紹介コーナーで、地道なメーカー努力も紹介した。新しい方式の攪拌造粒機の発表が有り、メーカーの機器形状・機能に対する独創的開発努力に感銘を受けた。聴講者ばかりで無く、講演者にも造粒メーカーとの有機的仲立ちを促進する意味でアンケートを行った。人間関係構築の場も有り、聴講者の感想としても良好であった。

2) 本年度計画した施設見学会は「食品粉体技術分科会」との合同分科会で、粉体コーヒーの製造に関わる施設を見学し、造粒に関わる講演を造粒分科会より2件行った。

3) 本期は、新幹事として3メンバーに参加していただき、期当初計画の総合的な達成度はかなり高い。

4) 加えて、村瀬コーディネーターを中心として「造粒分科会の歩み」という電子データファイルを「1973年の分科会創設初回」からの実績記録としてまとめて頂いているところである。

### 2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について

(分科会) (人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.10.17	群馬/AGF関東㈱	13 (44)	【食品粉体技術分科会と合同開催】 テーマ「食品と造粒技術」 AGFインスタントコーヒー工場の見学・講演会 ・「噴霧乾燥の基礎と実務 一粒子径コントロールと造粒」; 吉田技術士事務所 吉田照男氏 ・「難局打開の造粒技術」; ㈱奈良機械製作所 吉原伊知郎氏
2	H27.3.5 ～6	静岡/ライオン㈱伊豆 高原研修センター	37	宿泊型技術討論会「災害防止に関わる造粒技術」 ～サブテーマ:自己修復に関わる造粒技術～

(幹事会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.5.29	静岡	11	工場見学会 技術討論会方針
2	H26.10.17	群馬	12	工場見学会反省 技術討論会予定
3	H26.12.5	東京ガーデンパレス	10	来年度の年間テーマについて、工業見学について、打ち合わせ。今後の会の運営について意見交換。
4	H27.3.5	静岡/ライオン㈱伊豆 高原研修センター	13	技術討論会担当役割分担 来年度について講演中の探索会の運営についての方針決定打ち合わせ。
5	H27.3.6	静岡/ライオン㈱伊豆 高原研修センター	13	技術討論会反省 来年度について 新代表幹事を桑原さんに決定。

(小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H27.1.23	名古屋リッチホテル	2	正コーディネーター・代表幹事、今後の会運営打ち合わせ

## 9.8 計装測定分科会

会員数 82人

(森康維コーディネータ、藤正督副コーディネータ、鷺尾一裕代表幹事[株式会社島津製作所]、大畑学副代表幹事[マイクロトラック・ベル株])

### 1. 平成 26 年度の事業実績概要

平成 26 年度の成果について

1)第 1 回分科会:静電気利用技術分科会との合同開催で行った。粉体応用技術を知るということを目的とし、樹脂粉末・金属粉末が用いられている 3D プリント技術に関する講演とその装置見学を行った。最新動向が把握できたこと、他分科会との交流を深め人脈形成できたことが収穫。

2)第 2 回分科会:第 34 回計装測定講演会として開催。テーマは“分散・凝集に関する最新の技術動向”とし、分散・凝集のメカニズム、制御ならびに評価方法、分散剤・界面活性剤の役割などについて基調講演 3 題、最近の取り組みやアプリケーション紹介(企業講演)3 題。

3)技術ロードマップを更新した。

4)第 3 回分科会:混合成形分科会との合同開催で工場見学会と講演会を実施。特に多品種の食器の自動製造ラインで、数多くの創意工夫が施されている点に興味深かった。

### 2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について

(分科会) (人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.9.3	東京/東京都立産業技術研究センター	15(49)	【静電気利用技術分科会と合同開催】 3D プリント技術に関する講演とその装置見学会 ・「AM 技術に関する基礎から最新状況まで」 (株)アспект 早野誠治氏 ・粉末床溶融結合装置(RaFaEl, SEMplice 等)の装置見学
2	H27.1.28	同志社大学 東京オフィス	43	テーマ「分散・凝集に関する最新の技術動向」 講演 1:微粒子、ナノ粒子の付着、凝集・分散挙動の評価と制御 東京農工大 神谷秀博氏 講演 2:スラリーの沈降静水圧・浸透圧測定による粒子集合状態評価 法政大学 森 隆昌氏 講演 3:濃厚粒子分散系の評価法とその実際 武田コロイドテクノ・コンサルティング株 武田真一氏 企業講演 1:分散剤によるスラリーの分散安定化の制御と応用 ライオン株 戸堀悦雄氏 企業講演 2:Formulaction 社「タービスキャン」を用いた安定性評価 英弘精機株 新井武彦氏 企業講演 3:レーザ回折・散乱法による分散・凝集評価 (株)島津製作所 鷺尾一裕
3	H27.2.2	大東亜窯業株(岐阜県)	13(35)	【混合成形分科会と合同開催】 ・工場見学会+講演 2 題 講演 1:混練プロセス評価に向けての試行実験 佐藤粉体テクノラボ 佐藤宗武氏 講演 2:セラミックスの湿式成形とその必要な評価法 名古屋工業大学 先進セラミックス研究センター 藤 正督氏

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.10.24	メルパルク京都	6	第 2 回分科会講演テーマ検討、養成講座総括他
2	H27.1.28	東京(京橋)	5	講演会総括、分科会連絡会報告他
3	H27.2.02	多治見	6	第 3 回分科会総括、次年度方針検討他

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
2	H26.8.19 ～20	神戸 三宮研修センター スペクトリス(株)	15	初日:増田先生、森先生のご講義、2日目:下記 1)オンライン粒度分布測定機(Inistec/Parsum)の説明 2)粉体流動特性測定機 (FT4)の説明、3)実機デモ

## 9.9 湿式プロセス分科会

会員数 82人

(東谷公コーディネータ、後藤邦彰副コーディネータ、石川敏代表幹事[関西金網(株)]、岡本泰次副代表幹事)

### 1. 平成26年度の事業実績概要

平成26年度の成果について

#### 1) 目標達成度

計画:本会合2回、幹事会3回、早期養成講座

実績:本会合1回、幹事会2回、早期養成講座

課題:コーディネータの後任が内定

#### 2) 活動の特徴

飲料関係の見学・講演会と交流会にて、ろ過機・ろ材メーカーとユーザーとの情報交換を実施。

参加者の約半数が非会員でろ過機ユーザーだった。継続的な参加および会員への勧誘が課題。

### 2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について

(分科会)(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.12.5	京都/サントリー 京都ビール工場	23	1)工場見学 ビールの製造工程およびろ過設備 2)講演1 醸造技師長 大下勝巳氏 ①ビールの製造工程 ②珪藻土濾過から膜ろ過への展開 ③定圧ろ過試験にもとづく操業条件の決定 3)講演2 大阪府立大学 岩田政司氏 ろ過圧搾に関する最近の研究開発動向

(幹事会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.12.5	京都/庄や	10	次回分科会、今後の体制について
2	H26.1.29	OCAT	5	次回分科会、今後の運営について

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
11	H27.1.29 ～30	大阪/関西金網(株)	10	①ろ過の基礎理論 ②ろ過装置の特徴と使用法 ③ろ材の特徴と使用法 ④膜ろ過概論 ⑤ろ材・分離膜の最近の動向 ⑥定圧ろ過実験

## 9.10 粒子加工技術分科会

会員数 105人

(福森義信コーディネータ、竹内洋文副コーディネータ、大川原正明代表幹事[大川原化工機(株)]

伊藤有一副代表幹事[信越化学工業(株)]、長門琢也副代表幹事[(株)パウレック])

### 1. 平成26年度の事業実績概要

3回の見学講演会及び製剤と粒子設計シンポジウムを通じて、最新の技術情報の取得及び会員の交流が行われた。

### 2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について

(分科会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.6	大阪/塩野義製薬(株)	81	見学・講演会 ・「凍結乾燥プロセスの理論的解析による品質向上と工程時間の短縮」 塩野義製薬(株) 川崎英典氏 ・「滑沢度に対する加振移送特性評価をはじめとする新たな工程分析技術」 大日本住友製薬(株) 村上貴之氏 ・「長剤薬局の現状と未来 ～臨床薬剤師の現場から～」 豊中市薬剤師会副会長 多田耕三氏 ・「一軸圧縮成形に対する一考察—原料粒子径と圧縮速度が充填率

				と成形体強度に及ぼす影響」	岡山大学 後藤邦彰氏
2	H26.9.19	釧路/株大塚製薬工場	36	見学・講演会 ・「注射剤・輸液の変遷と改良への取り組み」 株大塚製薬工場 岡本恵一氏 ・「がん化学療法における薬剤師の関わり」 市立釧路総合病院 本川 聡氏 ・「医薬品製造企業における薬物粉じん安全性対策」 大塚製薬株小富正昭氏 ・「特殊製剤による難溶性薬物の溶解性改善」 千葉大学 森部久仁一氏	
3	H27.2.27	愛媛/丸三産業株	45	見学・講演会 ・「医療用脱脂綿の製造と品質管理」 丸三産業株 製品開発本部長 森本 侃氏 ・「愛媛県産バイオマス資源由来の CNF（セルロースナノファイバー）調整に向けた取り組み～蜜柑搾汁残渣およびコットンを例に」 愛媛大学農学部 秀野晃大氏 ・「固形癌における高周波誘導焼灼療法の実用化を目指して ～医理工連帯による試み～」 愛媛大学工学部 猶原 隆氏 ・「アドヒアランスと医療品製剤～薬剤師が考えること～」 愛媛大学医学部付属病院薬剤部部長 教授 荒木博陽氏	

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.6	メルパルク大阪	32	幹事・世話人交代/年間行事予定確認/分科会計画/シンポジウム等について
2	H26.9.18	ANA クラウンプラザホテル釧路	18	第2回見学講演会役割分担/次回見学会/次年度以降の活動について
3	H26.10.22	ホテル日航福岡	30	シンポジウム/第3回見学講演会他
4	H27.2.26	ホテルサンルート松山	26	H27年度分科会確認・計画/シンポジウム等について

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
7	H26.11.12 ～13	兵庫/伊丹商工プラザ 株パウレック	10	攪拌造粒、流動層造粒の違いと打錠した錠剤硬度との関係を学び、体験した。

## 9.11 輸送分科会

会員数 88人

(田中敏嗣コーディネータ、武居昌宏副コーディネータ、井上照男代表幹事[ツカサ工業株]、

勝島慎二郎副代表幹事[アマノ株])

### 1. 平成26年度の事業実績概要

平成26年度の成果について

1.今年度はすでに2回の分科会を行い無事終了し、3回の分科会に向けて、進めている。

2.目標達成度は90%。

3.H26年度は粉体ハンドリング分科会『粉粒体ハンドリング技術』編集に輸送部門として参加協力してきたが、ここに来ていろいろな問題点が出てきて、足踏み状態になっており、引き続き粉体ハンドリング分科会と協議して今後どう協力できるか検討中。

4.当分科会では、輸送に関する研究をしている、大学等の研究機関が少なく講演者を探すのに苦労している状況が続いている。

5.粉体ハンドリング分科会との統合の話は有りますが、未だ進んでいない状況。

### 2. 実施した本会合、幹事会、小委員会について

(分科会)(人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.20	長崎/三菱重工業株	17 (36)	【粉体ハンドリング分科会と合同】 『三菱重工業株式会社 長崎研究所』の見学会と講演会 ・「揺動する循環流動層における粒子濃度分布および粒子壁伝熱特性」 千葉大学大学院 趙桐(Zhao Tong)氏
2	H26.11.13	福島/旭鉦末(株)大滝根工場	21	鉦山と製造工場の見学と技術講演会 演題「アブレシブ・インジェクション・ジェットのパルセーションについて」 日本大学 彭 國義氏

3	H27.3.18	横浜/崎陽軒	20	工場見学・講演会 ・「湿式プロセス表面改質」 横浜国立大学大学院環境情報研究院 飯島志行氏
---	----------	--------	----	---

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.20	長崎ブリックホール	9	・副代表幹事交代の件、次回分科会/編集小委員会/早期養成講座の件について 他
2	H26.8.18	名古屋国際センター	7	・幹事交代の件、拡大分科会運営委員会の報告、編集小委員会、早期養成講座について
3	H26.10.11	静岡/遠鉄百貨店	7	(編集小委員会)「粉粒体ハンドリング技術」現状と今後の対応について
4	H26.11.13	福島/白木屋	8	第3回分科会と次年度活動計画準備
5	H27.3.18	横浜/加藤ビル88	9	次年度の分科会活動について

(粉体エンジニア早期養成講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
4	H26.9.11 ～12	埼玉/(株)日清製粉グループ本社研修所	10	今年度も引き続き輸送部門を担当

## 9.12 クリーン化分科会

会員数 84 人

(大谷吉生コーディネータ、鍵直樹副コーディネータ、宇治勝幸代表幹事[千代田テクノエース(株)]

渡辺幸次副代表幹事[(株)日立プラントサービス]

### 1. 平成 26 年度の事業実績概要

平成 26 年度の成果について

1)第1回、第2回の分科会と第1回、第2回、第3回の幹事会を開催済み。今後、第3回分科会と第4回幹事会を開催する予定。

2)第1回分科会は佐藤食品工業東港工場で米飯施設の見学と講演2題を開催し、食品工場の施設管理とクリーン化の技術動向に関する最新の知見を得ることができた。

3)第2回分科会は日本空気清浄協会と合同でクリーンテクノロジー講座「クルーンルームの計画と設計」を開催した。クリーンテクノロジーの概論と空気清浄化、クルーンルームの計画と設計、設備と関連機器、省エネルギー、ICRクルーンルームの設計例、BCRクルーンルームの実施例につき最新の知見を得ることができた。

4)第3回分科会は未定であるが、医薬品工場などの空気清浄技術の講演と工場見学を予定しており、最新技術の習得を目標としている。

### 2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について

(分科会) (人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

回	日程	場所	人数	議題
1	H.26.6.5	佐藤食品工業(株)東港工場	17	食品工場見学と講演会 ・「食品工場における省エネ技術紹介」 (株)日立製作所 末松孝章氏 「Novel application of air filters」 金沢大学大学院 大谷吉生氏
2	H.26.7.15	連合会館 402 号室	12(36)	クリーンテクノロジー講座「クルーンルームの計画と設計 (日本空気清浄協会と共催)」

(幹事会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H.26.6.5	新潟/越後一会十郎	8	第2回、3回分科会開催について。
2	H.26.7.15	東京/八吉御茶ノ水店	7	3回分科会開催について。
3	H.26.12.1 7	東京/かこいや 丸の内オアゾ店	9	第3回分科会開催について。来年度「粉体技術」特集号執筆の件。次年度分科会開催について
4	H.27.2.26	東京/シャン・ドゥ・ソレイユ	8	27年度活動方針について。第1回分科会について。11月特集号内容について。



### 9.13 環境エネルギー・流動化分科会

会員数 42 人

(堀尾正靱コーディネータ、幡野博之副コーディネータ、鈴木康夫代表幹事[JFE エンジニアリング(株)]、高島久継副代表幹事[㈱奈良機械製作所])

#### 1. 平成 26 年度の事業実績概要

平成 26 年度の成果について

- 1) 第1回分科会は先方の都合で中止となったが、2/7 予定の第4回まで実質上3回の分科会を開催した。
- 2) 今年は、予定通り分科会原点の「流動層」に視点を絞り講演会・見学会を開催した。幸い関係者の協力により、最新のテーマ講演や施設の見学をすることができた。
- 3) 業界で注目されている内容の講演会・施設見学を実施して、業界関係者に個人的に広く声をかけても、参加人数が抜本的に増加するほどのインパクトがない。

#### 2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について

(分科会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.5.28	三重/九州工業テクノポリマー	24	流動層乾燥装置の製作過程と 40 年利用している乾燥装置の見学会・講演会
2	H26.7.10～11	北海道/風力発電所、バイオエネルギーセンター他	12	稚内において再生可能エネルギーを幅広く俯瞰する見学会(風力、太陽光、バイオマスボイラ、メタン発酵施設)
3	H26.11.28	東京/葛西水再生センター	23	300t/d ターボ式下水汚泥焼却炉

(幹事会、小委員会)

分科会にあわせて議論したため単独開催なし

### 9.14 晶析分科会

会員数 168 人

(大嶋寛コーディネータ、長谷川正巳副コーディネータ、亀井利道代表幹事[味の素(株)]、津崎裕也副代表幹事[月島機械(株)])

#### 1. 平成 26 年度の事業実績概要

平成 26 年度の成果について

- 1) 26 年度も、化学工学会の晶析技術分科会や粉体工学会の晶析研究会、海水学会、海水学会若手会、国際学会(ACTS2014)などと積極的に連携して日本の晶析研究と産学連携を推進した。
- 2) 特に今回は新たな取り組みとして、広く会員からアンケートで意見を伺い、ご要望の多かったテーマについて講演会を開催し、大変好評であった。
- 3) 計画した分科会・講演会については予定通り実施したが、専門講座については 27 年度の実施として、タイトル案、講師案の協議を行った。

#### 2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について

(分科会) (人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.5.3	京都/メルパルク京都	40	粉体工学会と協賛、粒子形態制御のニーズと課題
2	H26.6.3	奈良/奈良県新公会堂	22 (273)	ACTS2014 ポスターセッションおよび講演会の一部を共同開催
3	H26.11.28	東京/同志社大学	24	粉体工学会 晶析研究会との合同シンポジウム ① 「Anti-solvent 晶析法での結晶粒子群の多形・形態の創り分け」 東京農工大学 滝山博志氏 ② 「マイクロ波照射中の無機塩溶液の特異現象～貧溶媒晶析、バブル生成、表面張力等～」 兵庫県立大学 朝熊裕介氏 ③ 「晶析モデリングツールを用いたバッチ晶析プロセス開発検討事例の紹介」 味の素(株) 小山知朗氏 ④ 「膜を用いた晶析・尿路結石とタンパク結晶への応用」 早稲田大学 小堀深氏
4	H26.12.3	大阪/大阪市立大学	36	会員アンケートで要望の多かった、核発生/さまざまな晶析現象 に関する講演会 ① 結晶核形成のメカニズムと結晶特性制御 大阪市立大学大学院 大嶋寛氏 ② 「晶析溶媒としての超臨界二酸化炭素の溶媒特性と晶析技術への応用展開」 信州大学 内田博久氏

				③ 「晶析装置設計」 月島機械(株) 津崎裕也氏 ④ 「医薬品原薬を用いたオイルアウト晶析における結晶粒度制御」 武田薬品工業(株) 高須賀正博氏
--	--	--	--	--

(幹事会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.5.9	東京/同志社大学東京オフィス、ウオルプタ	10	・2014年度年間計画について ・第1回分科会詳細計画、第2回分科会概要について
2	H26.5.30	京都/ホテルグランヴィア京都	7	・第2回分科会詳細、第3回分科会概要計画について ・HP改訂について、 ・ACHENA2015、INCHEM2015への参画について
3	H26.6.20	奈良新公会堂、ホテル日航奈良	8	・第2回分科会ベストポスター賞選考について ・第3回分科会詳細、第4回分科会概要計画について
4	H26.8.6	大阪/大阪市立大学文化交流センター会議室他	6	・海水学会との共同関係について ・化学工学会の晶析技術分科会との連携について ・第3回、4回分科会内容確認
5	H26.11.28	同志社大学東京オフィス、他	11	・第3回分科会最終打ち合わせ ・第4回分科会詳細計画について ・来年度以降の晶析研究会(粉体工学会)との合同セミナー開催案について ・ACHEMA2015実施計画について
6	H26.12.3	大阪市立大学文化交流センター、他	12	・第4回分科会最終打ち合わせ ・H27年度事業計画について ・H27年度国際交流について ・専門講座講師案について

(小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.5.09	同志社大学東京オフィス	10	第3回分科会計画案、専門講座、粉体工学会晶析研究会との連携について
2	H26.8.06	大阪市立大学文化交流センター	6	・第1回および第2回分科会報告 ・第4回分科会にむけたアンケート内容集計結果について
3	H26.09.11	千葉工業大学津田沼キャンパス	4	・海水学会との共同関係について ・専門講座(日程・場所)について ・第3回分科会内容確認 ・第4回分科会内容確認
4	H26.11.19	ベーコンラボ(京都)	6	・現状報告:協賛行事の報告、確認 ・第3回、第4回分科会の役割分担について ・H27年度事業計画について ・専門講座タイトル、講師案について
5	H26.12.4	神戸大学	4	・専門講座講演項目の詳細と講師案について ・神戸大 菰田先生への講師依頼
6	H27.2.5	横浜国立大学	5	・専門講座について ・従来の晶析技術の考え方 ・上ノ山先生への依頼 ・次年度第一回分科会について

### 9.15 微粒子ナノテクノロジー分科会

会員数 243人

(神谷秀博コーディネータ、宮原稔副コーディネータ、福井武久代表幹事[株栗本鐵工所]、  
関谷敏雄副代表幹事[綜研化学(株)])

#### 1. 平成26年度の事業実績概要

平成26年度の成果について

- 1)微粒子・ナノ材料を有効活用し、製品へと応用するためには、分散がキー技術であり、今年度は高濃度系スラリー利用をテーマに、下記2回の分科会を開催した。
- 2)第1回は濃厚系スラリーの分散基礎と評価、分散法と応用例についての講演およびライオン(株)における粉体利用をメインとする見学会を実施した。第2回は濃厚系スラリーを利用するための分散・混練・塗布・乾燥の基礎ならびにその応用例についての講演を実施した。
- 3)二回の分科会を通じて、協会会員に向けて、濃厚系スラリーに関する基礎、利用、製品応用に関する最新情

報を発信、啓発を促すことができた。また、微粒子・ナノ材料関連企業および開発機関間のネットワーク構築の一助となった。

4)反省点は、分科会開催が予定の三回に届かなかったことである。次年度も濃厚系スラリーをテーマとした最新情報発信を継続する予定であり、微粒子・ナノ材料を如何に活用するかを念頭に分科会活動を進め、会員企業の発展に貢献するように努めていく。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について  
(分科会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.8.27	東京/ライオン(株)	69	見学会及び講演会 「濃厚系スラリー中での微粒子、ナノ物質の分散・凝集挙動の基礎」東京農工大学大学院 神谷秀博氏 「濃厚系スラリーの分散性とその最新評価手法」 武田コロイドテクノ・コンサルティング(株) 武田真一氏 「ナノ材料の工業的に利用するためのスラリー分散方法 ～プロセスの観点から～ ビューラー(株) 前田真志氏 「導電性カーボンブラックの物性と蓄電デバイスへの応用」 ライオン(株) 河野洋一郎氏
2	H26.10.14	京都/キャンパスプラザ京都	88	技術講演会「高濃度系微粒子・ナノ材料及びスラリー」 「コロイド濃厚系の分散・混練・塗布・乾燥における非平衡相転移」 東京大学 山口由岐夫氏 「有機系・ハイブリット型太陽電池の歴史と現状」 御国色素(株) 瓦家正英氏 「口腔内崩壊錠の開発経緯と製剤設計 －強度、崩壊性向上の視点から－」 ライオン(株) 伊藤武利氏 「ナノフルイドの実用化に向けて」 東北大学 阿尻雅文氏 「セラミック電子部品における粉体とスラリー設計」 (株)村田製作所 鷹木洋氏

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.4.14	名古屋/ノリタケカンパニーリミテド/マリオットアソシアホテル	11	平成 26 年度の活動計画の検討、第一回ナノ物質の検討と対応に関する情報交換会の開催結果、ナノ粒子の検討と対応、今後の活動について及び次回分科会の企画について
2	H26.8.27	東京/ライオン	7	第 1 回分科会準備及び第 2 回分科会企画
3	H26.10.14	キャンパスプラザ京都	8	第 2 回分科会準備及び第 3 回分科会企画
4	H27.3.13	栗本鐵工所	7	H26 総括と H27 計画立案

9.16 静電気利用技術分科会

会員数 341 人

(松山達コーディネータ、大澤敦副コーディネータ、島中伸代表幹事[ホソカワミクロン(株)]、  
乾薫副代表幹事[日本ニューマチック工業(株)])

1. 平成 26 年度の事業実績概要

平成 26 年度の成果について

- 1)常置型分科会となって 4 年目となる。
- 2)活動の基本は粉体工学会／粒子帯電制御研究会との「協賛」であり、両会の活動方針を下記の様に定めた。
  - 粒子帯電制御研究会 … アカデミックな内容を中心とする活動
  - 静電気利用技術分科会 … 粉体に拘らず、見学を主体とするアプリケーション的な活動
- 3)上記方針に基づき第 1 回分科会を「東京都立産業技術研究センター」にて企画させて頂き、3D プリンターに関する講演と装置見学を実施した。テーマ選定に助けられ参加募集が多く、非常に充実した分科会となった。
- 4)第 2 回分科会は松山先生企画の海外講師を招いた国際ワークショップを創価大学にて実施した。国内からの外部参加者は 13 名であった。この企画については、来年度以降も同様の形で実施したいと考えている。
- 5)当分科会メンバーが分科会功労賞を受賞(ホソカワミクロン(株)島中)
- 6)以前より検討していた代表幹事交代についてはホソカワミクロン内で後任を選出し、一参加者として実際の分科会活動に対応しながら引き継ぐ作業に入っている。この現状に対して協会よりご意見・ご提案が有れば是非頂きたい。現時点で具体的な代表幹事交代の時期は決定していない。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について  
(分科会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.9.3	東京/都立産業技術研究センター	49	【計装測定分科会と合同開催】 3D プリント技術に関する講演とその装置見学会 ・「AM 技術に関する基礎から最新状況まで」 (株)アスペクト 早野誠治氏 ・粉末床溶融結合装置 (RaFaEl、SEMplice 等) の装置見学
2	H26.12.20	東京/創価大学工学部	35	粉体の帯電に関わる国際ワークショップ

<その他活動(協賛)>

回	日程	場所	主テーマ	主催団体
1	H26.7.30	東京/同志社大学東京オフィス	講演×約4件	粒子帯電制御研究会

(幹事会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.9.3	産業技術研究センター周辺	12	第2回分科会の内容検討 粉碎技術誌 2015 年 8 月号執筆
2	H27.2.12	協会東京事務所	12	H27 年度第 1 回分科会企画、代表幹事について

(専門講座)

常時、主に粉体トナー測定に関する本会合企画(見送り)

9.17 電池製造技術分科会

会員数 400 人

(境哲男コーディネータ、堤敦司副コーディネータ、秋元 祐代表幹事[日清エンジニアリング(株)]

桜井敏夫副代表幹事[東洋ハイテック(株)]、佐藤高公副代表幹事[(株)セイシン企業])

1. 平成 26 年度の事業実績概要

平成 26 年度の成果について

1)電池、キャパシタ、燃料電池などの最新技術開発に関して講演会や見学会を開催して、将来、粉体技術が貢献できる開発課題の抽出を行うとともに、共同開発のネットワークを形成するための異業種交流を活発に行った。

2)電池製造に関する材料技術と粉体技術の密接な融合により、世界トップレベルの次世代電池製造プロセスの提案ができるようになりつつある。

2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について

(分科会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.10	東京/東京大学生産技術研究所	111	【講演会】世界的に活発な開発競争が行われている車載用や電力貯蔵用蓄電池に関するテーマを選定 講演では自動車テーマ 1 題、材料テーマ 1 題、電池 2 題があり、各々最新の成果と自動車業界での将来展望、電池での特異環境下での需要の可能性、新しいシステムへの可能性等が報告された。技術紹介では豊富は納入実績、技術蓄積からなる空気輸送のアイテム、コストダウン案等が報告された。 第2回開催予定地から山形銀行、飯豊町役場の計3名も出席され分科会開催における新しいスタイルの足掛りを作ることが出来た。
2	H26.10.16 ~17	山形/山形大学/飯豊町町民総合センター	83	宿泊型講演会・見学会[講演4件、技術紹介1件] 大学の有機エレクトロニクスイノベーションセンターに併設する蓄電デバイス開発研究センターで進められている開発寄りの産学官金連携の取り組みの状況紹介に加え、公的機関としては世界唯一と思われる微多孔質膜開発施設の見学、世界中から集めた最新 xEV の展示とそれらに用いられる材料開発研究の現場見学。
3	H27.2.6	尼崎ホテル「ホップイン」アミッシング	73	見学会・講演会4件、技術紹介1件 講演は自動車搭載の電気二重層キャパシタの現状とこれからの展望、材料関係で セパレーター、バインダーの開発

				状況の報告。大阪府立大学の辰巳砂教授より全固体電池の研究開発と将来展望の話があった。 また技術紹介として日本スピンドル製造(株)より「ジェットペースター」を始めとする各種取扱い商品の紹介があった。
--	--	--	--	---

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.10	東大生産技術研究所	9	第2, 3回次回講師、演題、日程、場所等
2	H26.10.16	山形/がまの湯別邸	9	第3回分科会、次年度分科会について 他
3	H27.2.6	ホテル「ホップイン」アミシング	9	〃

## 9.18 リサイクル技術分科会

**会員数 280人**

(大矢仁史コーディネータ、外川健一副コーディネータ、荻田哲也代表幹事[赤武エンジニアリング(株)]、蓮池達央副代表幹事[(株)椿本バルクシステム])

### 1. 平成 26 年度の事業実績概要

平成 26 年度の成果について

- 1)第1回分科会は、福島市及び周辺地区に入り、「原発災害後の除染状況」に関する講演会と見学会を開催した。今もなお、多くの問題を抱えた現場にて、現地の方々の「生の声」を聞き、現状を認識できた。
  - 2)第2回分科会は、北九州市内にて「都市ごみ焼却灰資源化プラント」と「スマートコミュニティ創造事業」の見学会を開催した。都市ごみ焼却灰を埋め立てず、セメント原料として資源化するという実践的なリサイクルプラントを間近で見ることができた。
  - 3)第3回分科会は、栃木県にて廃自動車などを中心とした「金属リサイクルプラント」と、産業廃棄物焼却処理能力を有する最新のキルン炉とストーカ炉におけるエネルギー回収の試験研究施設を見学した。
- ◇今年度は、当分科会のロードマップに示した「金属資源」「再生可能エネルギー」「震災廃棄物」の3本柱に沿った幅広い見学会、講演会を開催することができた。

### 2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について

(分科会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.23	福島/「除染情報プラザ」～飯舘村～伊達市小国地区	29	除染問題の現状と今後の展望[見学会及び講演会] ・「原発災害後の復興に向けた福島における取り組み」 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 山川充夫氏 ・「農業対策と除染をめぐる」 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 石井秀樹氏 ・「除染現場の見学と解説」 元飯舘村副村長 長正増夫氏
2	H26.9.9	北九州/三菱マテリアル九州工場黒崎地区	26	セメントを利用したリサイクル技術とスマートグリッドの現状[見学会] ・「セメント製造と都市ごみ焼却灰資源化プラント」 ・「スマートグリッド関連施設:地域節電所、日鉄住金テクノエンジニア、水素エネルギー館」
3	H27.2.10	栃木/壬生町	32	[見学会] ・「自動車リサイクル/金属原料リサイクル」(株)ツルオカ ・「焼却炉設備におけるエネルギー循環施設」(株)アクトリー

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.6.23	福島/除染情報プラザ	8	第2回分科会の検討と分科会功労賞について
2	H26.9.10	山口/小天狗	9	第3回分科会の検討
3	H26.12.9	名古屋市	8	H27年度事業計画の検討
4	H27.2.10	壬生町	8	H27年度第1回分科会の検討

## 9.19 食品粉体技術分科会

会員数 166 人

(羽倉義雄コーディネータ、五月女格副コーディネータ、千葉仁司代表幹事[日清エンジニアリング(株)]、川島哲文副代表幹事[㈱竹中工務店])

### 1. 平成 26 年度の事業実績概要

平成 26 年度の成果について

平成 26 年度活動のメインテーマ…食品製造の基本となる『安全・安心』。加えて『新たな調理・生産方式』、『最先端の生産技術』、『食品工場の衛生環境の向上』、『トラブルの未然防止』もテーマに揚げて活動した。

1)第 1 回分科会:分級ふるい分け分科会との合同分科会を開催し、製粉工程における粉砕・分級(篩)技術の他、品質安全への取組みなども学んだ。

2)第 2 回分科会:食品造粒物のハンドリングについて主に包装工程を見学し、品質維持や噴霧造粒において造粒物の大きさ、強さなどをコントロールする技術などを学んだ。

3)第 60 回専門講座:「食品のモノ作り」について「食品開発」「生産性向上」「衛生管理」「フードディフェンス」などの観点から 7 名の先生の講義を通じて学んだ。

### 2. 実施した本会合、幹事会、小委員会、専門講座、早期養成講座について

(分科会) (人数欄の括弧内数字は合同の場合の総数を示す)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.5.29	群馬/㈱日清製粉グループ本社 製粉ミュージアム	25 (45)	【分級ふるい分け分科会と合同開催】 テーマ「製粉、粉砕・分級」 製粉ミュージアムの説明と見学・講演会 ・「米の粉砕と米粉の性質」 食品総合研究所 五月女 格氏 ・「最近のふるい機の動向」 ケイエスリンクス(株) 河原田 豊氏
2	H26.10.17	群馬/AGF 関東(株)	27 (42)	【造粒分科会と合同開催】 テーマ「食品と造粒技術」 AGF インスタントコーヒー工場の見学・講演会 ・「噴霧乾燥の基礎と実務 - 粒子径コントロールと造粒」 吉田技術士事務所 吉田照男氏 ・「難局打開の造粒技術」(株)奈良機械製作所 吉原伊知郎氏

(幹事会、小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.5.29	東京/北千住駅付近	11	・新幹事就任の件 ・分科会反省と次回の計画 ・専門講座の開催計画
2	H26.7.14	東京/㈱竹中工務店	8	・専門講座の開催計画
3	H26.10.17	群馬/太田グランドホテル、東京	9	・分科会反省と次回の計画 ・専門講座の開催計画
4	H27.2.5	東京/秋葉原	11	・専門講座の反省と次回の計画

(専門講座)

回	日程	場所	人数	講座概要
7	H27.2.5	東京/UDX GALLERY NEXT-2	40	「食品のモノ作り」について「食品開発」「生産性向上」「衛生管理」「フードディフェンス」などの観点から講義を通じて学ぶ。

## 10. 粉体工業技術センター（増田弘昭センター長、豊見昭副センター長）

### 10.1 教育部門（牧野尚夫マネジャー、大川原正明副マネジャー、松坂修二副マネジャー）

#### 1. 平成 26 年度の事業実績概要

平成 26 年度は、例年同様に粉体入門セミナーや粉体エンジニア早期養成講座などの様々な講座を下表のように開催し、ほぼ期待通りの参加者数を確保した。その一方で専門講座は、4～5 回程度の開催を期待していたものの、2 回しか開催できなかった。

部門会議は、入門セミナーの講義内容および講師の見直し、入門セミナーよりもやさしいレベルのコンテンツ検討などを行うため 3 回行い、次年度の講義内容と講師を決定した。入門セミナーよりも優しいコンテンツの作成については、当面は、新たな講座を開設するのではなく、入門セミナー参加者に基礎レベルの参考書籍を紹介するなどに対応する。また、「粉体技術」誌で連載中の「入門の予習編」の完成を待って、本内容の参考資料としての活用も考えて行くことになった。粉体エンジニア早期養成講座については、2 月に開催予定の実行小委員会にて、次年度以降の講義内容を検討する予定であるが、現時点では大きな変更は行わない見込である。

#### H26 年度 開催講座

講座名とタイトル		開催日	開催場所	参加者数
粉体入門セミナー(I)(第 41 回)		H26.6.5～6	メルパルク京都<京都市>	50
粉体入門セミナー(II)(第 42 回)		H26.6.24～25	メルパルク京都<京都市>	44
粉体入門セミナー(III)(第 43 回)		H26.7.9～10	メルパルク京都<京都市>	57
粉体 エ ン ジ ニ ア 早 期 養 成 講 座	第 1 回粉体工学基礎論	H26.7.23～24	1 日目 セントレア会議室/株式会社 LIXIL 榎戸工場<愛知県>	20
	第 2 回計測・測定	H26.8.19～20	1 日目 三宮研修センター/スペクトリス株式会社 <神戸市>	15
	第 3 回混合・混練	H26.8.28～29	株式会社ダルトン<大阪府>	12
	第 4 回粉体ハンドリング I (輸送・供給)	H26.9.11～12	株式会社日清製粉グループ本社研修所<埼玉県>	10
	第 5 回粉体ハンドリング II (プラント・貯槽)	H26.10.16～17	赤武エンジニアリング株式会社<静岡県>	10
	第 6 回粉砕	H26.10.23～24	杉山重工株式会社<愛知県>	10
	第 7 回粒子加工	H26.11.12～13	伊丹商工プラザ4F 会議室 A/株式会社パウレック<兵庫県>	10
	第 8 回乾燥	H26.11.20～21	株式会社大川原製作所<静岡県>	9
	第 9 回分級	H26.12.2～3	日清エンジニアリング株式会社粉体事業部<埼玉県>	9
	第 10 回集じん	H26.12.10～11	アクトシティ浜松/株式会社環境衛生研究所<浜松市>	13
	第 11 回ろ過	H27.1.29～30	関西金網株式会社<大阪市>	10
第 59 回粉体技術専門講座<集じん分科会企画>		H26.10.21	メルパルク京都<京都市>	62
第 60 回粉体技術専門講座<食品粉体技術分科会企画>		H27.2.5	UDXGALLERYNEXT 2、3 <東京都>	40
粉じん爆発・火災安全研修[初級・基礎編]		H26.9.18～19	同志社大学京田辺キャンパス<京都府>	61
粉じん爆発・火災安全研修[中級・技術編]		H27.3.12～13	労働安全衛生総合研究所 <東京都 清瀬市>	43
第 2 回海外情報セミナー		H26.6.6	株式会社日清製粉グループ本社 本社ビル 会議室<東京都>	45

#### 2. 実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.5.14	京都/京都本部	11	1.現在各種セミナーや講座が抱えている課題を検討 2.入門セミナーよりも易しいレベルのコンテンツ検討
2	H26.9.24	京都/京都本部	10	1.教育部門企画の講座進捗状況の報告の報告 2.委員長連絡会議の討議結果の報告の報告

				3.粉体入門セミナーについて 講演タイトル、講演内容の検討、講師選定 テキスト全ページカラー化について 4.特別講座、アドホックの計画について確認 5.粉体入門セミナーよりも易しいレベルのコンテンツの 検討
3	H26.12.12	京都/京都本部	12	1. H26 年度事業計画 進捗状況の報告 2. H27 年度事業計画 起案 3. H27 年度 委員体制と予算について 4.その他

(粉体エンジニア早期養成講座実行小委員会)

回	日程	場所	人数	議題
1	H27.2.24	京都/ホテルセントノ ーム京都	24	1.H26 年度の反省 2.H27 年度の計画について 3.業務スケジュールの確認 4.その他

## 10.2 製造事業部門 (竹内和マネジャー)

### 1. 平成 26 年度の事業実績概要

#### 1-1 売上高・支出の推移

	25 年度実績	26 年度実績予測
売上(千円)	100,533	92,000
売上前年度比(%)	114	92
事業費(支出)	70,967	65,150
収支差	29,747	26,850

(単位：千円)

#### 1-2 平成 26 年度の重要項目の実施の状況

- 実績 26 年度予算:売上 94,120 千円、利益(収支差)24,060 千円としていたが、26 年度実績見込は売上 92,000 千円(予算比 97.7%)、利益 26,850 千円(予算比 107.4%)と見込んでいる。売上減の原因は、主力の JIS-8 種の落込み(11 月現在売上前年比△2,800 千円、△10%)である。また、海外では中国が不振(前年比△60%)である。一方、費用圧縮により利益は増えるの見込んでいる。
- 製造委託業者とのコミュニケーション:業務委託契約を更新し、商品管理責任の所在を明確にしたが、定期会議の開催は予定通りにできていない。
- JIS 試験用粉体 1 用の粒子径測定装置の更新:標準粉体委員会で検討の結果、現行の沈降天びんを継続使用することになった。
- 検定用粒子の CRM 化:MBP 粒子の「不確かさ」測定結果を新 HP に UP、実質上 CRM として使用できるようにした。

## 10.3 産学技術交流推進部門 (後藤邦彰マネジャー、菅原一博副マネジャー)

### 1. 平成 26 年度の事業実績概要

#### 1-1 技術相談

同志社大学との契約が切れたため、相談員の組織を検討。

協会個人会員+大阪府立大学大学院 岩田 政司先生、金沢大学大学院 瀬戸 章文先生 を相談員とした。

#### H26 年度実績(12/22 現在)

問合せ 4 件 技術相談に進んだもの 1 件。

当初 40 件/年 の利用を目標にしていた。ホームページ上の案内のみだと 利用者が少ないため、今後はチラシを配布し利用者増を図りたい。

#### 1-2.APPE 産学官連携フェア

APPIE 産学官連携フェア 2015 の企画

日時:2015 年 10 月 15 日 9:30~15:00

会場:大阪/インテックス大阪 センタービル 国際会議ホール及び会議室

粉体工業展大阪2015の2日目。

内容:2013 と同様、①フラッシュプレゼン②ランチョンパーティ③ポスターセッション④相談コーナーとする。国際会議ホールは半面で区切り、フラッシュプレゼンの会場とポスターセッション&ランチョンパーティの会場とする。

#### 1-3. テクノカフェ

粉体に関連する技術テーマをとりあげ、飲み物や軽食をとりながら「カフェ」というフランクな雰囲気でお話しや意見を交わすことを目的としている。大学研究者と企業技術者との間や企業技術者同士の交流・情報交換の場として役立ていただいている。



タイトル	開催日	開催場所	参加者数
第4回テクノカフェ	H26.10.29	京都/ホテルセントノーム京都	26
第5回テクノカフェ	H27.3.3	京都/ホテルセントノーム京都	15

\*テクノカフェは3回予定していたが、2回の開催となった。

#### 1-4. 粉体技術セミナー

APPIE 産学官連携フェアで注目を集めたテーマをとりあげるホットな話題の講演会として開催。

タイトル	開催日	開催場所	参加者数
第1回ベストシーズ講演会	H26.10.29	京都/ホテルセントノーム京都	42

#### 2. 実施した会合、会議について

回	日程	場所	人数	議題
1	H26.4.22	京都/京都本部	6	1.技術相談について 2.APPIE 産学官連携フェア2015の会場と時間、内容について 3.APPIE 産学官連携フェア2013の追跡アンケートについて 4.ベストシーズ&第4回テクノカフェについて 5.第5回テクノカフェについて 6.H26年度会議開催日程の確認
2	H26.8.29	京都/京都本部	8	1.10月 ベストシーズ&第4回テクノカフェについて 2.第5回テクノカフェについて 3.H27年度の事業計画について
3	H27.3.3	京都/セントノーム京都	7	1.H27年度事業計画について 2.第1回ベストシーズ講演会 反省会 3. APPIE 産学官連携フェア2015について

\*4回の会議を予定していたが、3回の開催となった

### 11. 技術情報交流懇話会

#### 11.1 火曜会(東京)

回	日程	当番会社	出席者数	場所	講演題目	講師
266	4.8	(株)粉研パウテックス	104	東京/東京ガーデンパレス	「対中投資の現状を踏まえた中国ビジネスの留意点」	日中投資促進機構 事務局長 嶋原信治氏
267	7.8	日本エリースマゲネチックス(株)	102	同上	「日本型高度資源循環のための粉碎・分離技術」	早稲田大学理工学術院教授 大和田秀二氏
268	10.7	(株)増野製作所	90	同上	「原子力・放射線を正しく怖がろう」	住友商事(株) 原子力開発担当部長 大代修司氏
269	H27.1.13	日清エンジニアリング(株)	125	同上	「ガラパゴス化しつつある日本のビール産業」	アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役副社長 川面克行氏

#### 11.2 水曜会(名古屋)

回	日程	当番会社	出席者数	場所	講演題目	講師
47	6.25	(株)マキノ	47	名古屋/名鉄ニューグラントホテル	「芸を継ぐ上方落語の戦い」	上方落語噺家 上方落語協会理事 林家染二氏
48	11.5	中央化工機(株)	43	同上	「ありうる未来、あるべきクルマ」	名古屋大学未来社会創造機構 特任教授 原口哲之理氏
49	H27.2.18	OMC(株)	45	同上	「日本にも氷河が存在した。-その発見と調査の記録-」	富山県立山カルデラ砂防博物館 学芸課長 飯田 肇氏

### 11.3 木曜会(大阪)

回	日程	当番会社	出席者数	場所	講演題目	講師
196	5.8	アイシン産業(株)	69	大阪/ANA クラウンプラザホテル大阪	「ストレス社会を生きる知恵」	心の相談室 with 竹内成彦氏
197	9.4	三興空気装置(株)	59	同上	「高齢者登山の楽しみ方」	(株)ユニ・エンジニアリング 取締役相談役 城 隆嗣氏
198	12.4	菅原精機(株)	76	同上	「禅とグローバリゼーション」	臨濟宗 大本山妙心寺 退蔵院 副住職 松山大耕氏
199	H27.3.6	タケモトデンキ(株)	60	同上	「ゴルフのふるさとを訪ねて・・・セント・アンドリュース」	ゴルフ写真家 秋山真邦氏

### 11.4 金曜会(福岡)

回	日程	当番会社	出席者数	場所	講演題目	講師
46	6.21	(株)マツシマメジャテック	34	福岡/博多都ホテル	「燃料電池の開発を支える“ものづくり”技術」	北九州私立大学 国際環境工学部 教授 泉政明氏
47	10.24	(株)マツシマメジャテック	30	同上	「小分子を利用したDNAナノワイヤーの開発」	九州工業大学 大学院 工学研究院物質工学研究系 准教授 佐藤しのぶ氏
48	H27.3.20	(株)田中三次郎商店	34	同上	「日本の製粉水車について」	福岡市博物館 学芸員 鳥巢京一氏

## 12. 共催・協賛及び後援行事 (H26.4.1～H27.3.31)

### 12.1 共催 5件

行事名	開催日	開催場所	主催団体
第10回エアロゾルシンポジウム	H26.5.30	埼玉/大宮ソニックシティ	日本エアロゾル学会
第49回技術討論会	H26.6.17～6.18	東京/東京大学	粉体工学会
第31回エアロゾル科学・技術研究討論会	H26.8.6～8.8	茨城/筑波大学	日本エアロゾル学会
第52回粉体に関する討論会	H26.9.25～9.27	兵庫/じばさんびる	第52回粉体に関する討論会
第31回製剤と粒子設計シンポジウム	H26.10.23～10.24	福岡/ホテル日航福岡	粉体工学会

### 12.2 協賛 30件

行事名	開催日	開催場所	主催団体
日本エネルギー学会[リサイクル・バイオマス・ガス化]三部会(RGB)シンポジウム	H26.5.9	東京/全国家電会館	日本エネルギー学会
第31回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会	H26.5.20～5.21	東京/早稲田大学	(公社)日本空気清浄協会
第132回環境資源工学会例会	H26.6.5～6.6	大阪/関西大学	環境資源工学会
FOOMA JAPAN2014	H26.6.10～6.13	東京/東京ビッグサイト	日本食品機械工業会
第1回講演会「エネルギー削減へ導く塗装技術と周辺動向」	H26.6.27	東京/日本ペイント(株)	日本塗装技術協会
セミナー「新しい製品を生み出す粉体技術 計測から機能化まで」	H26.7.10	大阪/大阪科学技術センター	化学工学会関西支部
色材分散講座	H26.7.14	大阪/大阪科学技術センター	色材協会関西支部
第12回技術講演会	H26.7.15～7.16	京都/京都国際会館	新製剤技術とエンジニアリングを考える会

TECHNO-FRONTIER 2014	H26.7.23 ～7.25	東京/東京ビッグサイト	日本能率協会
自動車 3Wet 塗装の最新技術動向	H26.7.25	福岡/八重洲博多ビル	日本塗装技術協会
「プラントエンジニアコース」「安全エンジニアリングコース」「環境エンジニアリングコース」	H26.7～12月までの間計 14 講座	東京/化学工学会会議室	化学工学会
第 47 回塗料基礎講座	H26.8.5 ～8.6	大阪/大阪科学技術センター	色材協会関西支部
第 56 回顔料入門講座	H26.8.28 ～8.29 H26.9.4 ～9.5	千葉/千葉工業大学	顔料技術研究会 日本顔料技術協会
第 45 回 Continuing Education シリーズ講演会「分散・塗布・乾燥プロセスにおける構造制御」	H26.9.1	東京/東京大学	化学工学会関東支部
JASIS2014	H26.9.3 ～9.5	千葉/幕張メッセ国際展示場	日本分析機器工業会 日本科学機器協会
第5回入門講座	H26.9.11 ～9.12	東京/日本ペイント(株)	日本塗装技術協会
IFPEX2014(第 24 回フルード・パワー国際見本市)	H26.9.17 ～9.19	東京/東京ビッグサイト	日本フルード・パワー工業会、フジサンケイビジネスアイ
INTERMEASURE2014	H26.9.17 ～9.19	東京/東京ビッグサイト	日本計量機器工業連合会
色材協会関係コロイド化学セミナー	H26.9.30	東京/日本大学	色材協会
粉体の機械的単位操作に関する参加型講演会～粉体の付着・凝集～	H26.10.2 ～10.3	東京/日本大学	粉体工学会
第 2 回講演会「新たな価値を創るイノベーション 塗装・塗料技術」	H26.10.31	東京/日本ペイント(株)	日本塗装技術協会
色材講演会「色材における界面制御と新素材-その可能性を探る」	H26.11.5	大阪/大阪科学技術センター	(一社)色材協会
第 39 回顔料物性講座	H26.11.11	東京/東京塗料会館	(一社)色材協会関東支部顔料部会、顔料物性研究会
セミナー「化学プラントの安全対策-事故事例に学ぶその実例-」	H26.11.12	大阪/大阪科学技術センター	化学工学会関西支部
グリーン・イノベーションEXPO 2014	H26.11.12 ～11.14	東京/東京ビッグサイト	化学工学会 日本能率協会
第 20 回流動化・粒子プロセスシンポジウム	H26.12.11 ～12.12	岡山/加計学園創立50周年記念館	(公社)化学工学会
第 5 回ファインバブル国際シンポジウム	H26.12.17	東京/東京大学 弥生講堂	(一社)ファインバブル産業会
GMP セミナー「医薬品製造に関わる GMP の最新動向;講演会&見学会」	H27.2.5 ～2.6	大阪/大阪科学技術センター	化学工学会関西支部
第 24 回顔料分散講座	H27.2.13	東京/東京塗料会館	(社)色材協会
第 30 回塗料・塗装研究発表会	H27.3.5	東京/東京大学生産技術研究所	日本塗装技術協会

### 12.3 後援 1 件

行事名	開催日	開催場所	主催団体
第19回資源循環型ものづくりシンポジウム	H26.12.10	名古屋/名古屋市工業研究所	第19回資源循環型ものづくりシンポジウム実行委員会

### 13. 刊行物

#### 13.1 「粉体技術」

編集 (一社)日本粉体工業技術協会 「粉体技術」編集委員会  
発行 (一社)日本粉体工業技術協会  
月刊誌 (1,500円・税別) (A4版 約100ページ 約1,500部/月)

#### 13.2 事業案内 (和文 2014/2015年度版)

編集 (一社)日本粉体工業技術協会 総務委員会  
発行 平成26年7月 (A4版/11ページ/400部)、平成26年11月 (A4版/11ページ/300部)

#### 13.3 事業案内 (英文 2014/2015年度版)

編集 (一社)日本粉体工業技術協会 総務委員会  
発行 平成26年7月 (A4版/6ページ/500部)

#### 13.4 第41回粉体入門セミナーⅠ テキスト

主催 (一社)日本粉体工業技術協会  
企画 粉体工学会  
発行 平成26年6月5日 (A4版/159ページ/70部)

#### 13.5 第42回粉体入門セミナーⅡ テキスト

主催 (一社)日本粉体工業技術協会  
企画 粉体工学会  
発行 平成26年6月24日 (A4版/198ページ/65部)

#### 13.6 第43回粉体入門セミナーⅢ テキスト

主催 (一社)日本粉体工業技術協会  
企画 粉体工学会  
発行 平成26年7月9日 (A4版/231ページ/75部)

#### 13.7 第59回粉体技術専門講座 テキスト

主催 (一社)日本粉体工業技術協会  
企画 集じん分科会  
発行 平成26年10月21日 (A4版/107ページ/70部)

#### 13.8 粉じん爆発・火災安全研修【初級】 ppt資料

主催 (一社)日本粉体工業技術協会/(独)労働安全衛生総合研究所  
編集 (一社)日本粉体工業技術協会 粉じん爆発委員会  
発行 平成26年9月18日 (A4版/142ページ/90部)

#### 13.8 粉じん爆発・火災安全研修【中級】 ppt資料

主催 (一社)日本粉体工業技術協会/(独)労働安全衛生総合研究所  
編集 (一社)日本粉体工業技術協会 粉じん爆発委員会  
発行 平成27年3月12日 (A4版/112ページ/70部)

#### 13.9 粉体エンジニア早期養成講座第1回[粉体工学基礎論]

主催 (一社)日本粉体工業技術協会  
協賛 (公社)化学工学会  
発行 平成26年7月23日 (A4版/90ページ/27部)

#### 13.10 粉体エンジニア早期養成講座第2回[計測・測定]

主催 (一社)日本粉体工業技術協会  
協賛 (公社)化学工学会  
発行 平成26年8月19日 (A4版/72ページ/25部)

#### 13.11 粉体エンジニア早期養成講座第3回[混合・混練]

主催 (一社)日本粉体工業技術協会  
協賛 (公社)化学工学会  
発行 平成26年8月28日 (A4版/124ページ/21部)

#### 13.12 粉体エンジニア早期養成講座第4回[粉体ハンドリングⅠ(輸送・供給)]

主催 (一社)日本粉体工業技術協会  
協賛 (公社)化学工学会  
発行 平成26年9月11日 (A4版/155ページ/20部)

#### 13.13 粉体エンジニア早期養成講座第5回[粉体ハンドリングⅡ(プラント・貯槽)]

主催 (一社)日本粉体工業技術協会  
協賛 (公社)化学工学会

発行 平成 26 年 10 月 16 日 (A4 版/115 ページ/15 部)

13.14 粉体エンジニア早期養成講座第 6 回[粉碎]

主催 (一社)日本粉体工業技術協会

協賛 (公社)化学工学会

発行 平成 26 年 10 月 23 日 (A4 版/66 ページ/23 部)

13.15 粉体エンジニア早期養成講座第 7 回[粒子加工]

主催 (一社)日本粉体工業技術協会

協賛 (公社)化学工学会

発行 平成 26 年 11 月 12 日 (A4 版/68 ページ/18 部)

13.16 粉体エンジニア早期養成講座第 8 回[乾燥]

主催 (一社)日本粉体工業技術協会

協賛 (公社)化学工学会

発行 平成 26 年 11 月 20 日 (A4 版/101 ページ/17 部)

13.17 粉体エンジニア早期養成講座第 9 回[分級]

主催 (一社)日本粉体工業技術協会

協賛 (公社)化学工学会

発行 平成 26 年 12 月 2 日 (A4 版/80 ページ/16 部)

13.18 粉体エンジニア早期養成講座第 10 回[集じん]

主催 (一社)日本粉体工業技術協会

協賛 (公社)化学工学会

発行 平成 26 年 12 月 10 日 (A4 版/108 ページ/25 部)

13.19 粉体エンジニア早期養成講座第 11 回[ろ過]

主催 (一社)日本粉体工業技術協会

協賛 (公社)化学工学会

発行 平成 27 年 1 月 29 日 (A4 版/173 ページ/20 部)

13.20 第 2 回海外情報セミナー

主催 (一社)日本粉体工業技術協会

企画 総務委員会

発行 平成 26 年 6 月 6 日 (A4 版/59 ページ/70 部)

13.21 粉体技術総覧 2014/2015

編集 (一社)日本粉体工業技術協会

発行 平成 26 年 11 月 26 日 (A4版/328 ページ/10000 部,CD 版 10000 部)

13.22 アカデミックコーナーの紹介(国際粉体工業展東京2014)

編集 (一社)日本粉体工業技術協会

発行 平成 26 年 11 月 26 日 (A4版/15 ページ/200 部)